

静岡県立大学

看護学部・研究科報

2017年度

自己点検評価委員会

目次

I.	はじめに	- 4 -
II.	看護学部の歴史	- 5 -
1.	歴史	- 5 -
III.	看護学部・大学院看護研究科の教員構成	- 7 -
1.	学部の教員構成	- 7 -
2.	研究科の教員構成	- 8 -
3.	年度途中着任の教員	- 9 -
4.	平成 29 年度全学委員会一覧	- 9 -
5.	学部委員会担当表	- 10 -
6.	学部・研究科合同委員会	- 10 -
7.	研究科委員会	- 10 -
IV.	看護学部・看護学研究科の教育課程	- 11 -
1.	学部	- 11 -
1)	学部の理念	- 11 -
2)	教育目標	- 11 -
3)	教育方針	- 11 -
	ディプロマ・ポリシー	- 11 -
	カリキュラム・ポリシー	- 12 -
	アドミッション・ポリシー	- 13 -
	学部カリキュラム	- 13 -
2.	研究科	- 24 -
1)	研究科の理念	- 24 -
2)	ディプロマ・ポリシー	- 24 -
3)	カリキュラム・ポリシー	- 24 -
4)	アドミッション・ポリシー	- 25 -
3.	研究科カリキュラム	- 25 -
1)	研究科の指導体制と研究テーマ	- 29 -
4.	臨地実習表	- 30 -
1)	ケア場面実習	- 30 -
2)	アセスメント実習	- 31 -
3)	公衆衛生基礎実習実習	- 32 -
4)	老年看護学実習 I	- 33 -
5)	3 年次後期臨地実習配置表	- 34 -
6)	成人看護学実習 III	- 36 -
7)	公衆衛生看護学実習 II (行政・学校・産業)	- 38 -
8)	国際保健・看護学実習	- 39 -
9)	大学院修士課程助産学分野 助産学実習	- 40 -
5.	学生の研究	- 41 -
1)	学部の指導体制と研究テーマ	- 41 -
V.	学生生活	- 49 -
1.	学生定員および在学生数	- 49 -

1) 学部	- 49 -
2) 研究科	- 49 -
2. 入学志願者数および入学者数とその背景	- 50 -
1) 学部	- 50 -
2) 研究科	- 51 -
3. 卒業・修了生の進路状況	- 52 -
1) 学部	- 52 -
2) 研究科	- 53 -
4. 免許・資格などの取得状況	- 53 -
VI. 国際交流	- 54 -
1. 平成 29 年度国際交流等事業	- 54 -
VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動	- 56 -
1. 領域別の教育活動と地域貢献活動	- 56 -
1) 専門基礎領域の活動	- 56 -
2) 基礎看護学領域の活動	- 57 -
3) 成人・老年看護学領域の活動	- 59 -
4) 小児看護学領域の活動	- 62 -
5) 母性看護学・助産学領域の活動	- 64 -
6) 精神看護学領域の活動	- 66 -
7) 公衆衛生看護学領域の活動	- 68 -
8) 在宅看護学領域の活動	- 69 -
VIII. 学部・研究科としての社会貢献	- 71 -
1. 公開講座等の開催状況	- 71 -
2. 高大連携事業	- 72 -
3. 県民の日大学ツアー	- 73 -

I. はじめに

本学では、人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成しています。将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成することを果たすべく、平成 26 年度カリキュラムを開始し、平成 29 年度で 4 年目を迎えました。平成 30 年度カリキュラムを作成し、編入学定員及び教育課程の変更について、文部科学省に申請しました。また、新・3 年次編入カリキュラムに伴い、平成 30 年度編入学入試を実施しました。

平成 29 年度当初に、看護学部および看護学研究科の課題として取り上げたものは以下のとおりです。

1. 看護学部

- 1) 平成 30 年度カリキュラム完成。
- 2) 平成 30 年度カリキュラム実施しつつ、平成 26 年度カリキュラムの評価を実施。
- 3) 大学入学共通テストの対応を検討。

2. 看護学研究科

- 1) 研究科の定員を含め将来構想を検討。
- 2) 研究指導担当教員の資格基準の明文化。
- 3) シラバスの書式統一と内容の検討。
- 4) 博士課程の設置を推進。

これらの課題は、各委員会等の活動により進めておりますが、まだ未達成の課題もあります。社会が大きく変化する中、その変化に対応すべく地域社会に貢献する人材育成と研究の成果を積極的に地域還元し続けるために、自己点検・評価に基づき更に質の高い教育・研究を提供できるよう改善を図ることに取り組んでいきます。

学部・研究科報作成にあたってご協力いただいた教員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 30 年 8 月

静岡県立大学

看護学部

金澤寛明

看護学研究科

渡邊順子

II. 看護学部の歴史

1. 歴史

		主な出来事
昭和 62 年	4 月	静岡県立大学開学、初代学長に内菌耕二が就任する。(県立三大学・静岡薬科大学〔昭和 28 年開学〕、静岡女子大学〔昭和 42 年開学〕、静岡女子短期大学〔昭和 26 年開学〕を改組・統合し、総合大学とする。)
平成 5 年	4 月	第 2 代学長に星猛が就任する。
平成 9 年	4 月	看護学部看護学科が設置される。 初代学部長に矢野正子が就任する。
	10 月	中森正純元教授が名誉教授になる。
	12 月	第 2 回静岡健康・長寿学術フォーラムが開催される。(セッションⅢ長寿社会に向けての看護学の展望：看護学部が運営)
平成 11 年	4 月	第 3 代学長に廣部雅昭が就任する。
	11 月	中田健次郎元教授が名誉教授になる。
平成 13 年	4 月	大学院看護学研究科(修士課程)が設置される。 初代研究科長に矢野正子が就任する。 第 2 代学部長に佐藤登美が就任する。
平成 15 年	4 月	第 3 代学部長に木村正人が就任する。 第 2 代研究科長に佐藤登美が就任する。 矢野正子前研究科長が名誉教授になる。
	11 月	わかふじ大会(第 3 回全国障害者スポーツ大会)が静岡で開催される(第 58 回国民体育大会 NEW!! わかふじ国体と同時開催)。 (学部 2, 4 年生全員がボランティア「わかふじアミィ」として、1 年間の研修を経て参加)
平成 17 年	4 月	第 4 代学長に西垣克が就任する。 第 4 代学部長に小寺栄子が就任する。 健康支援センターが設置される(初代センター長に永井洋子教授)。
平成 19 年	4 月	静岡県公立大学法人が設置・経営する大学となる。 初代理事長に鈴木雅近、学長に西垣克が就任する。 第 5 代学部長及び第 3 代研究科長に木村正人が就任する。
	10 月	第 4 代研究科長に式守晴子が就任する。 永井洋子元教授が名誉教授になる。
平成 21 年	2 月	学長代行に木苗直秀が就任する。
	3 月	第 5 代学長に木苗直秀が就任する。
平成 22 年	4 月	看護学研究科看護学専攻助産学専門分野が助産師学校となる。
平成 23 年	4 月	第 2 代理事長に竹内宏が就任する。 第 6 代学部長に金澤寛明が就任する。 第 5 代研究科長に中垣紀子が就任する。
平成 24 年	4 月	第 3 代理事長に本庶佑が就任する。

平成 25 年	4 月	第 7 代学部長に式守晴子が就任する。 第 6 代研究科長に古川文子が就任する。
平成 26 年	4 月	看護学部入学定員を 120 人に増員する。
平成 27 年	3 月	小鹿キャンパスに新看護学部棟が完成する。
平成 27 年	4 月	第 6 代学長に鬼頭宏が就任する。 第 8 代学部長に金澤寛明が就任する。 第 7 代研究科長に西川浩昭が就任する。 看護学部及び看護学研究科の主な教育拠点を小鹿キャンパスに移転し、2 キャンパス制の運用を開始する。
平成 28 年	4 月	短期大学部看護学科教員に兼任辞令が交付される。
平成 28 年	10 月	短期大学部看護学科が廃科され、短期大学部看護学科所属教員が看護学部専任となる。
平成 29 年	4 月	第 9 代学部長に金澤寛明が就任する（再任）。 第 8 代研究科長に渡邊順子が就任する。

III. 看護学部・大学院看護研究科の教員構成

1. 学部の教員構成

表 3-1-1 H29 年度学部の教員構成

※ (H29 年 4 月 1 日現在)

区 分		担当教員			
		教授	准教授	講師	助教
学部基礎科目	医学系	金澤寛明 (解剖生理学) 井上健一郎 (呼吸器病学) 古賀震 (内科学)	高林ふみ代 (食品衛生)	濱井妙子 (薬学、 国際保健学)	三崎健太郎 (環境毒性学)
	保健学系	西川浩昭 (保健学)			
専門教育科目	基礎看護学	荒井孝子 操華子		管原清子	松浦明美 倉本直樹
	成人看護学	青木和恵 山田紋子 田中範佳	鈴木琴江	糸川紅子 前野真由美	飯塚真樹 木元千奈美 石切山千恵 影山葉子
	老人看護学		安田真美		石川 真 石垣範子
	精神看護学	篁 宗一	長澤利枝 村方多鶴子		近藤美保 遠藤りら
	小児看護学			鈴木和香子	
	母性看護・助産学	太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子 永谷実穂	山田貴代 鈴木 恵 高木 静
	公衆衛生看護学	深江久代	今磯純子 杉山真澄	佐藤瑠美	岩本真弓 望月友美子 安藤継子
	在宅看護学	富安眞理		今福恵子	酒井知子 田中悠美
	国際保健・看護学	渡邊順子			

2. 研究科の教員構成

表 3-2-1 H29 年度研究科の教員構成

※ (H29 年 4 月 1 日現在)

区 分		担当教員		
		教授	准教授	講師
共通科目	看護学共通科目	金澤寛明・西川浩昭 井上健一郎・渡邊順子 青木和恵・山田紋子 田中範佳・篁 宗一 富安眞理	安田真美 今磯純子 <兼担> 東野定律 (経営情報イノベーション 研究科)	濱井妙子
	他領域連携科目	<兼担> 森本達也・今井康之 (薬食生命科学総合学府) 犬塚協太 (国際関係学研究科)		<兼担> 刀坂康史・三宅正紀 黒羽根孝太 (助教) 砂川陽一・中西勝宏 (薬食生命科学総合学府) (助教) 浦野充洋 (経営情報イノベーション研究科)
専門科目	保健・医療システム学	☆西川浩昭		
	看護技術学	☆荒井孝子 ☆渡邊順子 ☆操 華子		
	看護管理学	☆渡邊順子		
	地域看護学	☆富安眞理		
	成人・老人看護学	☆青木和恵 ☆山田紋子 ☆田中範佳	安田真美	糸川紅子
	助産学	☆太田尚子	中川有加 藤田景子 石川紀子	福島恭子 (助教) 山田貴代 (助教) 高木 静 (助教) 鈴木 恵
	小児看護学		鈴木和香子	
	精神看護学	☆篁 宗一	村方多鶴子	

☆ 主指導教員

3. 年度途中着任の教員

表 3-3-1 H29 年度途中着任教員

※ (H30 年 3 月 31 日現在)

区分	職名	着任月日	氏名
国際看護学	講師	平成 29 年 10 月 1 日	根岸まゆみ

4. 平成 29 年度全学委員会一覧

全学委員会名	
広報委員会	RI 取り扱い管理委員会 (放射線安全委員会)
留学生委員会	組み替え DNA 実験安全委員会
産学連携推進委員会	動物実験センター運営委員会
入学者選抜実施委員会	ハラスメント防止・対策委員会
個別学力検査問題検討委員会	ハラスメント緊急対策委員会
自己評価委員会	ハラスメント相談員
共同利用施設運営委員会	はばたき寄金運営委員会
キャリア支援センター委員会	発明委員会
学生委員会	開学記念行事実行委員会
教務委員会	施設有効利用に関する委員会
教務管理部各部会組織	感染症管理対策委員会
図書館情報委員会	感染症流行検討部会
保健衛生委員会	看護学部入試改革委員会
教職課程委員会	中期・年度計画推進委員会作業部会
研究倫理委員会	FD 委員会
公開講座委員会	情報センター運営委員会
国際交流委員会	利益相反委員会
環境安全委員会	男女共同参画委員会
グローバル化方針策定委員会	

5. 学部委員会担当表

学部委員会	
学部学生委員会	学部教務委員会
カリキュラム検討委員会	入学者選抜実施委員会
FD 検討委員会	

6. 学部・研究科合同委員会

学部・研究科合同委員会	
予算委員会	実習委員会
自己点検評価中期計画推進委員会	広報・企画委員会
教育情報環境整備委員会	研究倫理審査委員会

7. 研究科委員会

研究科委員会	
教務・カリキュラム委員会	研究科学生委員会
研究科入学者選抜実施委員会	

IV.看護学部・看護学研究科の教育課程

1. 学部

1) 学部の理念

人間尊重の理念に基づき、変動する社会の要請に応じて、看護専門職の役割を認識し、専門的知識・技術に裏付けされた判断によって、主体的に行動できる人材を育成する。また将来にわたって保健医療福祉における課題に積極的に取り組み、人々の健康生活の向上に寄与する人材を育成する。

2) 教育目標

1. 生命の尊厳を基盤とし、人間を身体的、心理的、社会的存在として総合的に理解できる能力を養う。
2. 根拠に基づいた系統的な知識を状況に応じて適用し、論理的かつ批判的に判断する能力を養う。
3. 看護実践に必要な専門的知識、技術及び姿勢を修得し、個人および集団の健康上の課題を適切に解決する能力を養う。
4. 対象者とその家族、地域住民と看護専門職としての関係を積極的に形成し、発展させる能力を養う。
5. 保健医療福祉チームの一員として、対象者とその家族、地域住民および他の専門職と協働できる能力を養う。
6. 看護専門職としての高い倫理観を持ち、時代・社会の変化に対応するために、常に自己研鑽につとめ、看護専門職の担うべき役割を主体的に追究することができる能力を養う。
7. 国際的視野を持ち、国際社会の中で保健医療福祉分野の交流や協力ができる基礎能力を養う。

3) 教育方針

ディプロマ・ポリシー

1. 幅広く深い教養を身につけ、「ひと」および「ひと」を取り囲む生活や地域社会、環境への関心を持つことができる。

2. 豊かな人間性と倫理観を持ち、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
3. あらゆる「ひと」と地域社会の健康課題とそれらに対する対応を統合的に考えることができる。
4. 保健医療福祉のチームの一員として協働でき、地域社会の課題解決に取り組むことができる。
5. 地域・国際的動向をふまえ、保健医療福祉の課題における看護の必要性と役割を理解し、責任ある行動を取ることができる。
6. 看護学の発展に対応するために、探究心を持ち主体的に学ぶことができる。

カリキュラム・ポリシー

1. 基礎分野Ⅰ：5学部横断型の全学共通科目として、広い教養と知識を学び、総合的かつ自主的な判断能力を養う。また、地域理解として「しずおか学」科目群の履修も必修とする。
2. 基礎分野Ⅱ：地域・国際的動向をふまえた、保健医療福祉の課題に対応する看護実践の基礎となる能力を養うことを目的とする。「主体性と判断力の育成」「英語コミュニケーション」「運動」「研修」「教育」の5科目群からなる。
3. 専門基礎分野：人間の健康、生活・社会の理解及び看護実践の基礎となる科学的知識を看護専門分野の履修に先立ち修得する。「人間と人間生活の理解」「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の4科目群からなる。
4. 看護専門分野：個人、家族及び集団の健康ニーズに対応した看護実践に必要な専門知識・技術の修得を目的とし、「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」の3科目群からなる。
 - 1) 専門分野Ⅰ：
看護学の理想的理解と人間の健康生活を支援するための基本的な看護方法や技術を修得する。
 - 2) 専門分野Ⅱ：
看護の基本的理念を基に、人間の発達段階と健康レベルに対応する看護方法について学ぶ。加えて少子高齢社会の進展や慢性疾患の増加、医療の高度化・専門化に対応した専門領域の看護方法についても学ぶ。さらに、演習を通して領域・分野毎の看護方法や看護技術を修得し、理論と実践の統合を目的とする臨地実習を行う。
 - 3) 統合分野：
看護の基本的理念を基に、在宅・地域などの看護活動の場に対応する看護方法について学ぶ。そして、健康長寿延伸の取り組みや静岡型地域包括ケアに関連した演習や実習を通して看護方法や看護技術を学ぶ。さらに、4年次の「卒業研究」「発展看護実習」等を通じて、看護専門分野の教育内容の統合を図る。

アドミッション・ポリシー

1. 日本語および英語による聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基本的な能力を身につけている。
2. ものごとを論理的に探求するために必要な高等学校の教育課程をバランスよく修得している。
3. 多様な価値観を尊重し真摯な態度で「ひと」に向きあえる。
4. 地域社会に看護職者として貢献する意思を持っている。

学部カリキュラム

	全学共通科目 科目名		全学共通科目 科目名
第1部門 (リテラシーとスタディ・スキル)	ドイツ語入門	第3部門 (現代教養)	日本の歴史と文化
	フランス語入門		くらしと化学 A 【英語による科目】
	スペイン語入門		くらしと化学 B 【英語による科目】
	中国語入門		基礎生命科学 I A 【英語による科目】
	日本語作文 A		基礎生命科学 I B 【英語による科目】
	日本語作文 B		基礎生命科学 II A 【英語による科目】
	情報検索実習		基礎生命科学 II B 【英語による科目】
	情報処理実習		現代日本文化入門 A 【英語による科目】
	ヒューマン・ケア		現代日本文化入門 B 【英語による科目】
	ライティング基礎		経営分析入門 A 【英語による科目】
	ライティング実践		経営分析入門 B 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語 I		英語で学ぶ日本語学 I A 【英語による科目】
	TOEFL 留学英語 II		英語で学ぶ日本語学 I B 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス基礎英語		英語で学ぶ日本語学 II A 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語 I		英語で学ぶ日本語学 II B 【英語による科目】
	TOEIC ビジネス英語 II		財務会計入門 A 【英語による科目】
第2部門 (概論)	自然科学概論	財務会計入門 B 【英語による科目】	
	化学入門	国際安全保障入門 I 【英語による科目】	
	生物学入門	国際安全保障入門 II 【英語による科目】	
	薬剤発達史入門	言語の学習・習得 I A 【英語による科目】	
	物理学入門	言語の学習・習得 I B 【英語による科目】	
	環境科学入門	言語の学習・習得 II A 【英語による科目】	
	哲学入門	言語の学習・習得 II B 【英語による科目】	
	社会思想史入門	Japanology 【英語による科目】	

歴史学入門	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々 【しずおか学】
宗教学入門	静岡の防災と医療 【しずおか学】
社会学入門	静岡地域食材学 A 【しずおか学】
国際関係学入門	静岡地域食材学 B 【しずおか学】
文化人類学入門	バイオ － 静岡から世界へ A 【しずおか学】
公共政策入門	バイオ － 静岡から世界へ B 【しずおか学】
心理学入門	茶学入門 【しずおか学】
生涯発達心理入門	ムセイオン静岡 － MUSEUM と文化 A 【しずおか学】
生命倫理入門	ムセイオン静岡 － MUSEUM と文化 B 【しずおか学】
知的財産管理入門	ムセイオン静岡 － 世界の文化遺産 A 【しずおか学】
	ムセイオン静岡 － 世界の文化遺産 B 【しずおか学】
	ムセイオン静岡 － 舞台芸術 A 【しずおか学】
	ムセイオン静岡 － 舞台芸術 B 【しずおか学】
	地域産業の国際比較－静岡と世界 A 【しずおか学】
	地域産業の国際比較－静岡と世界 B 【しずおか学】
	静岡の市民活動 【しずおか学】
	静岡市連携・留学生等基礎教育講座 【しずおか学】
	地域づくりの理論 【しずおか学】
	地域づくりの方法 【しずおか学】
	地域づくりインターシップ 【しずおか学】
	ふじのくに学(富士山) 【しずおか学】
	ふじのくに学(お茶) 【しずおか学】
	ふじのくに学(世界農業遺産) 【しずおか学】
	ふじのくに学(雑草学) 【しずおか学】
	総合科目 I (キャリア形成概論 I)
	総合科目 II (キャリア形成概論 II)
	男女共同参画社会とジェンダー
	人権が支える社会
	グローバル政治経済事情
	ジャーナリズム論

授業科目一覧
(平成 24 年度以降の入学生用)

	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考
					必修	選択	
授業科目の概要	全学共通科目	第 1 部門 (リテラシーと スタディスキル)	1・2・ 3・4	前後		各 2 〜 1	8 単位以上選択
		第 2 部門(概論)					
		第 3 部門(現代教養)					
		総合科目					
学部基礎科目	運動	身体運動科学 A I	1	通		2	
		身体運動科学 A II	2	通		2	
	研修	海外英語研修	1・2・ 3・4			2	
授業科目の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考
	主体性と判	基礎セミナー	1	前	1		
		看護統合セミナー I	2	通	1		
	英語コミュニケーション	基礎英語 I	1	前	1		
		基礎英語 II	1	前	1		
		基礎英語 III	1	後	1		
		基礎英語 IV	1	後	1		
		英語コミュニケーション I	2	前	1		
		英語コミュニケーション II	2	後	1		
	心と体の理解	人間関係論	1	前	1		
		機能形態学 I	1	前	2		
		機能形態学 II	1	後	1		
		生物化学	1	前	1		
		病理学	1	後	1		
		微生物学	1	後	1		

授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考
				必修	選択	
		臨床薬理学	2	前	1	} 2 単位選択
		臨床栄養学	2	前	1	
		病態学Ⅰ(内科)	2	前	1	
		病態学Ⅱ(外科)	2	前	1	
		病態学Ⅲ(小児)	2	後	1	
		病態学Ⅳ(精神)	2	後	1	
		病態学Ⅴ(母性)	2	後	1	
		症候論	1	後	1	
		臨床検査・画像診断	2	前	1	
		基礎健康科学実習	1	後	2	
		臨床心理学	2	後	1	
		健康行動論	2	前	1	
		運動と健康の生理学	1	前	1	
		社会と健康の理解	健康と社会	1	前	
	現代社会論		1	前	1	
	社会福祉論		1	後	1	
	保健学		2	前	2	
	国際保健		1	後	1	
	保健福祉政策論		2	後	1	
	統計と情報処理		1	前	1	
	保健医療統計学		1	後	1	
	実践保健医療統計学		2	前	1	
	疫学		2	後	2	
	健康環境論		1	前	1	
	医療・看護経済学		2	後	1	
	国際看護論	2	後	1		
専門教育科目	看護の基盤	看護学概論	1	前	2	
		看護理論	1	後	1	
		看護と安全	2	前	1	
		対象の理解Ⅰ(成人看護学)	1	後	1	

必修 39
単位
選択 4
単位

	授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		備考
				必修	選択	
授業科目の概要		対象の理解Ⅱ(老年看護学)	2	前	1	
		対象の理解Ⅲ(母性看護学)	2	前	1	
		対象の理解Ⅳ(精神看護学)	2	後	1	
		対象の理解Ⅴ(小児看護学)	2	後	1	
		地域家族支援論	2	後	2	
		看護と倫理	2	後	1	
		ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1	
	看護実践Ⅰ	ヘルスアセスメント技術	2	前	2	
		基礎看護技術Ⅰ	1	前	2	
		基礎看護技術Ⅱ	1	後	1	
		基礎看護技術Ⅲ	2	後	1	
		成人看護学Ⅰ	2	後	2	
		成人看護学Ⅱ	3	前	2	
		成人看護学演習	3	前	1	
		老年看護学	2	後	2	
		老年看護学演習	3	前	1	
		母性看護学Ⅰ	2	後	1	
		母性看護学Ⅱ	3	前	1	
		母性看護学演習	3	前	1	
		精神看護学	3	前	2	
		精神看護学演習	3	前	1	
		小児看護学	3	前	2	
		小児看護学演習	3	前	1	
		公衆衛生看護学概論	2	前	2	
		地区活動論	2	前	2	
		地域看護支援論Ⅰ	2	後	1	
		地域看護支援論Ⅱ	2	後	2	
		公衆衛生看護活動展開の方法論	3	前	2	
		公衆衛生看護管理活動論	4	前	1	
		公衆衛生看護活動展開の方法演習	4	前	1	

授業科目の名称	配当年次	開講学期	単位数		備考
			必修	選択	
在宅看護学	3	前	2		
在宅看護学演習	3	前	1		
ターミナルケア	4	前	1		
看護実践Ⅱ					
ライフサイクル実習	1	前	1		
ケア場面実習	1	後	1		
看護アセスメント実習	2	後	2		
老年看護学実習Ⅰ	2	後	1		
老年看護学実習Ⅱ	3	後	2		
成人看護学実習Ⅰ	3	後	2		
成人看護学実習Ⅱ	3	後	2		
成人看護学実習Ⅲ	4	前	2		
母性看護学実習	3	後	2		
小児看護学実習	3	後	2		
精神看護学実習	3	後	2		
公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	後	2		
公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前	2		
在宅看護学実習	3	後	2		
発展看護実習Ⅰ	4	通	1		
発展看護実習Ⅱ	4	通	1		
看護の役割と発展					
災害看護	2	前	1		専門教育 科目 必修 83単位 選択 2単位
看護研究	3	前	1		
卒業研究	4	通	2		
看護統合セミナーⅡ	4	通	1		
看護管理論	4	後		1	
看護教育論	4	後		1	
看護政策論	4	後		1	
最新看護の動向	4	後		1	
} 2単位選択					

※ 卒業要件は 136 単位を取得しなければならない。

授業科目一覧

(平成 26 年度以降の入学生用)

		授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考	
						必修	選択		
授業科目の概要	全学共通科目	第 1 部門 (リテラシーとスタディスキル)		1・ 2・ 3・ 4	前・ 後		各 2 〜 1	10 単位以上選択	
		第 2 部門 (概論)							
		第 3 部門 (現代教養)							
		総合科目							
	学部基礎科目	運動	身体運動科学 A I		1	通 通			2
			身体運動科学 A II		2				2
		研修	海外英語研修		1・				2
					2・ 3・ 4				
	教育	日本国憲法		1・			2		
				2・ 3・ 4					
		教育学		2	前		2		
		授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考	
						必修	選択		
授業科目の概要	主体性と判	基礎セミナー		1	前 通		1		
		看護統合セミナー I		2			1		
	英語コミュニケーション	基礎英語 I		1	前		1		
		基礎英語 II		1	前		1		
		基礎英語 III		1	後		1		
		基礎英語 IV		1	後		1		
英語コミュニケーション I		2	前	1					

		英語コミュニケーションⅡ	2	後	1				
	心と体の理解	人間関係論	1	前	1				
		機能形態学Ⅰ	1	前	2				
		機能形態学Ⅱ	1	後	1				
		生物化学	1	前	1				
		病理学	1	後	1				
		微生物学	1	後	1				
		臨床薬理学	2	前	1				
		臨床栄養学	2	前	1				
		病態学Ⅰ（内科）	2	前	1				
		病態学Ⅱ（外科）	2	前	1				
		病態学Ⅲ（小児）	2	後	1				
		病態学Ⅳ（精神）	2	後	1				
		病態学Ⅴ（母性）	2	後	1				
		症候論	1	後	1				
		臨床検査・画像診断	2	前	1				
		基礎健康科学実習	1	後	2				
		臨床心理学	2	後		1	} 2単位選択		
		健康行動論	2	前		1			
	運動と健康の生理学	1	前		1				
	社会と健康の理解	健康と社会	1	前	2				
		現代社会論	1	前	1				
		社会福祉論	1	後	1				
		保健学	2	前	2				
		国際保健	1	後	1				
		保健福祉政策論	2	後	1				
		統計と情報処理	1	前	1				
		保健医療統計学	1	後	1				
		実践保健医療統計学	2	前	1				
		疫学	2	後	2				
		健康環境論	1	前		1	} 2単位選択		
		医療・看護経済学	2	後		1			
		国際看護論	2	後		1			
							必修 39単位 選択 4単位		

	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考	
					必修	選択		
授業科目の概要	看護の基盤	看護学概論	1	前	2			
		看護理論	1	後	1			
		看護過程	2	前	1			
		看護と安全	2	前	1			
		対象の理解Ⅰ (成人看護学)	1	後	1			
		対象の理解Ⅱ (老年看護学)	2	前	1			
		対象の理解Ⅲ (母性看護学)	2	前	1			
		対象の理解Ⅳ (精神看護学)	2	後	1			
		対象の理解Ⅴ (小児看護学)	2	後	1			
		地域家族支援論	2	後	2			
		看護と倫理	2	後	1			
		ヘルスプロモーション・健康教育論	2	後	1			
		看護実践Ⅰ	ヘルスアセスメント 技術	2	前	2		
	基礎看護技術Ⅰ		1	前	2			
	基礎看護技術Ⅱ		1	後	1			
	基礎看護技術Ⅲ		2	後	1			
	成人看護学Ⅰ		2	後	2			
	成人看護学Ⅱ		3	前	2			
	成人看護学演習		3	前	1			
	老年看護学		2	後	2			
	老年看護学演習		3	前	1			
	母性看護学Ⅰ		2	後	1			
	母性看護学Ⅱ		3	前	1			
	母性看護学演習		3	前	1			
	精神看護学	3	前	2				
精神看護学演習	3	前	1					
小児看護学	3	前	2					

		小児看護学演習	3	前	1			
		公衆衛生看護学概論	2	前	2			
		地区活動論	2	後	1			
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	3	前	2			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	3	前	2			
		公衆衛生看護管理論	4	前		1	※保健師国家試験受 験資格要件 ※保健師国家試験受 験資格要件 2単位選択	
		公衆衛生看護学演習	4	前		1		
		国際保健・看護演習	4	前		1		
		在宅看護学	3	前	2			
		在宅看護学演習	3	前	1			
		ターミナルケア	4	前	1			
	看護実践Ⅱ	ケア場面実習	1	前	1			
		看護アセスメント実習	2	後	2			
		老年看護学実習Ⅰ	2	後	1			
		老年看護学実習Ⅱ	3	後	2			
		成人看護学実習Ⅰ	3	後	2			
		成人看護学実習Ⅱ	3	後	2			
		成人看護学実習Ⅲ	4	前	2			
		母性看護学実習	3	後	2			
		小児看護学実習	3	後	2			
		精神看護学実習	3	後	2			
		公衆衛生基礎実習	1	前	1			
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	3	後	2			
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	前		2	※保健師国家試験受 験資格要件 2単位選択	
		国際保健・看護実習	4	後		2		
		在宅看護学実習	3	後	2			
	発展看護実習Ⅰ	4	通	1				
	発展看護実習Ⅱ	4	通	1				

授業科目の概要	授業科目の名称		配当年次	開講学期	単位数		備考		
					必修	選択			
授業科目の概要	専門教育科目	看護の役割と発展	災害看護	2	前	1		必修 77単位 選択 3単位	
			看護研究	3	前	1			
			卒業研究	4	通	2			
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1		1単位選択
			災害看護	4	通		1		
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1		
			総合看護	4	通		1		2単位選択
			看護統合セミナーⅡ	4	通		1		
			チーム医療	4	通		1		
			看護管理論	4	後		1		2単位選択
			看護教育論	4	後		1		
			看護政策論	4	後		1		
			最新看護の動向	4	通		1		

※ 卒業に必要な最低修得単位数は133単位である。卒業認定に必要な単位を修得することで、「看護師」の国家試験受験資格を得られる。

※ さらに「保健師国家試験受験資格要件」の指定された4単位

(①「公衆衛生看護管理論(1単位)」、「公衆衛生看護学演習(1単位)」及び「公衆衛生看護学実習Ⅱ(2単位)」、

又は

②公衆衛生看護管理論(1単位)、「国際保健・看護演習(1単位)」及び「国際保健・看護実習(2単位)」のいずれかの組み合わせ)

を修得することで、「保健師」の国家試験受験資格を得られる。

【海外英語研修の履修・認定方法】

- (1) 本学部が認定した3週間あるいは4週間のコースを修了した学生に2単位を認定する。本学部授業期間中の履修については原則として単位は認定しない。
- (2) 成績は本学で認定する。
- (3) 学生は、所定の期日までに事務局学生室へ以下の書類を添えて単位認定を申請する。

(ア) 「海外英語研修単位認定申請書」

(イ) 認定されたコースの修了書オリジナルとそのコピー

(ウ) 担当教員より Syudent Report 等の成績証明書が渡されている場合には、オリジナルとそのコピー

※ ただし本学入学以前に終了したものについては認められない。
また、修了証明書の提示がない場合は、単位を認定できない。

2. 研究科

1) 研究科の理念

静岡県立大学大学院看護学研究科においては、いかなる状況下においても、自己の人間性を基盤に習得した専門的知識を活用し最適な看護サービスが提供でき、看護関係職の良きリーダーとなる人材の養成を目指している。生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与する。

2) ディプロマ・ポリシー

本学修士課程では所定の単位を修め、修士論文および最終試験に合格したことにより、以下の能力が認められたものとして修士(看護学)の学位を授与します。

1. 看護の専門分野における優れた研究能力と専門性を修得し、その分野におけるリーダーシップを発揮することが期待できる。
2. 実践看護分野において、専門的で高度な実践能力および指導力を有する。
3. 看護・保健・医療・福祉の場における課題に関して主体的に取り組むことができる。
4. 健全な研究倫理を身につけ、様々な領域において活躍が期待できる。

3) カリキュラム・ポリシー

本研究科は、生命関連領域の諸科学と連携し、見識のある高度な専門職能を有する人材かつ看護科学の教育・研究および実践活動を担う人材を養成し、人々の健康増進を図り、豊かな国際社会の構築に寄与できるよう以下の通り教育課程を編成し、実施する。

1. 生命諸科学と連携し、看護学固有の高度な専門知識や技術を習得できるようにカリキュラムを編成する。
2. 看護学の発展に寄与する、知の創造を担う研究能力や人材開発の醸成を行うカリキュラムを編成する。
3. 社会保障制度の運営に寄与する人材を育成するカリキュラムを編成する。
4. 国際保健の分野を含め、広く社会の看護ニーズに対応できる、柔軟な適応力の醸成を行うカリキュラムを編成する。

4) アドミッション・ポリシー

本研究科の重要な目的は、看護サービスの質の向上や臨床研究の指導者、看護系大学における教育や研究を担う人材を養成することである。

今後、看護サービスの各領域で活躍できる人材は、総合的な視野と保健・医療・福祉全般にわたる高い見識と専門技術を有することが求められる。同時に、経営・管理的な視点から時代や社会の変化と、その要請に機敏な対応能力を備えていることが求められる。

1. 看護学および看護実践への強い関心を有し、さらなる専門性を磨こうとする意思を有している。
2. 看護・保健・医療・福祉分野の基礎的な知識・技術を有し、より深めようとする意思を有している。
3. 看護実践で生じる様々な課題の解決により貢献しようとする強い意思を有している。

3. 研究科カリキュラム

H29年度 教育課程

領域	科目名	単位数		1年次		2年次		H29年度 未開講
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	
共通科目 看護学共通科目	研究法Ⅰ	2		30				
	研究法Ⅱ	2		30				
	看護理論		2	30		30		
	看護倫理		2	30		30		
	看護と医事法		2		30		30	
	看護教育論		2	30		30		
	看護政策論		2	30		30		
	コンサルテーション論		2		30		30	
	家族看護論		2		30		30	
	在宅看護論		2		30		30	
	感染看護論		2		30		30	
	看護情報学特論		2	30		30		
	病態生理学		2		30		30	
	生体構造機能論		2	30	30	30	30	
	社会人間行動論		2		30		30	
	国際保健医療論		2	30		30		
英文科学論文講読		2	30		30			

		母子相互作用支援論		2		30		30	
	他領域連携科目	病態薬学特論		2	30		30		
		微生物学特論		2	30		30		
		臨床栄養学特論		2		30		30	▲
		環境影響特論		2	30		30		▲
		現代社会研究 I		2		30		30	
		経営組織論特論		2		30		30	
基盤看護学領域	看護技術学	看護技術学特論 I		2	30				
		看護技術学特論 II		2	30				
		看護技術学特論 III		2	30				
		看護技術学演習 I		2		30			
		看護技術学演習 II		2		30			
		看護技術学演習 III		2		30			
		看護技術学応用実習 I		2		60			
		看護技術学応用実習 II		2		60			
		看護技術学応用実習 III		2		60			
		看護技術学特別研究		8			60	60	
	看護管理学	看護管理学特論		2	30				
		看護管理学演習		2		30			
		看護管理学応用実習		2		60			
		看護管理学特別研究		8			60	60	
実践看護学領域	成人・老人看護学	成人・老人看護学特論 I		2	30				
		成人・老人看護学特論 II		2	30				
		成人・老人看護学特論 III		2	30				
		成人・老人看護学演習 I		2		30			
		成人・老人看護学演習 II		2		30			
		成人・老人看護学演習 III		2		30			
		成人・老人看護学応用実習 I		2		60			
		成人・老人看護学応用実習 II		2		60			
		成人・老人看護学応用実習 III		2		60			
		成人・老人看護学特別研究 I		8			60	60	
		成人・老人看護学特別研究 II		8			60	60	
		成人・老人看護学特別研究 III		8			60	60	
		実践看護学	精神看護学	精神看護学特論 I		2	30		
精神看護学特論 II				2	30				▲

		精神看護学特論 III		2	30				▲	
		精神看護学演習 I		2		30				
		精神看護学演習 II		2		30			▲	
		精神看護学演習 III		2		30			▲	
		精神看護学応用実習 I		2		60				
		精神看護学応用実習 II		2		60			▲	
		精神看護学応用実習 III		2		60			▲	
		精神看護学特別研究		8			60	60		
	小児看護学	小児看護学特論		2	30				▲	
		小児看護学実践特論 I		2	30				▲	
		小児看護学実践特論 II		2	30				▲	
		小児看護学実践特論 III		2		30			▲	
		小児看護学実践特論 IV		2		30			▲	
		小児看護学演習 I		2		30			▲	
		小児看護学演習 II		2		30			▲	
		小児看護学演習 III		2		30			▲	
		小児看護学演習 IV		2		30			▲	
		小児看護学応用実習 I		2		60			▲	
		小児看護学応用実習 II		2		60			▲	
		小児看護学応用実習 III		2		60			▲	
		小児看護学特別研究		8			60	60	▲	
	広域看護学領域	地域看護学	地域看護学特論		2	30				
			地域看護学演習		2		30			
			地域看護学応用実習		2		60			
地域看護学特別研究				8			60	60		
システム学 保健・医療		保健・医療システム学特論		2	30					
		保健・医療システム学演習		2		30				
		保健・医療システム学応用実習		2		60				
		保健・医療システム学特別研究		8			60	60		
助産学		助産学特論 A-I		2	30					
		助産学特論 A-II		2	30					
		助産学特論 A-III		2	30					
		助産学演習 A-I		2		30				
		助産学演習 A-II		3	45					

助産学応用実習 A		2			60		
助産学特論 B - I		2	30				
助産学特論 B - II		2	30				
助産学演習 B - I		2		60			
助産学演習 B - II		2	60				
助産学演習 B - III		3	90				
助産学演習 B - IV		3	90				
助産学演習 B - V		3	90				
助産学応用実習 B - I		9		405			
助産学応用実習 B - II		2	90				
助産学特別研究		8			60	60	

1) 研究科の指導体制と研究テーマ

今年度は、4名の大学院生より修士論文が提出され、修士論文審査および最終試験を経て4名全員が修士課程を修了することとなった。

研究科の指導は、指導教員を中心に、適宜、他領域の教員の協力を得ながら行われた。研究の実施にあたり、病院施設等より多大なるご支援、ご協力を得た。修士論文発表会は、平成30年3月5日(月)の10時より、大学院生、学部生、教員および、研究協力施設の関係者など多数の参加を得て開催された。

修了生の氏名、専門分野および論文題目は以下の表のとおりである。

表 3-4-2 平成 29 年度看護学研究科修了生および修士論文題目一覧

氏名	専門分野	研究題目	指導教員
西島千晴	保健・ 医療システム学	特定保健指導における体重減少に関連する 心理社会的要因の検討	西川浩昭
宮崎さやか	看護技術学	在宅要介護高齢者のポリファーマシーと排 尿障害の実態に関する研究	渡邊順子
高橋倫世	成人・老人 看護学	壮年期 2 型糖尿病患者の自己管理行動を獲 得するまでの判断のプロセス	山田紋子
内山愛里花	助産学	小学校中学年の長女をもつ母親の娘の初経 および初経教育の認識	太田尚子

4. 臨地実習表

1) ケア場面実習

平成 29 年 5 月 23 日～6 月 27 日

A クラス (5 月 30 日・6 月 13 日・27 日)				B クラス (5 月 23 日・6 月 6 日・20 日)			
病院	G	学生数	病棟 (教員)	病院	G	学生数	病棟 (教員)
静岡市立 病院	1	5 名	東 10 階病棟 (管原清子)	静岡市立 病院	12	6 名	東 10 階病棟 (管原清子)
	2	5 名	東 8 階病棟 (管原清子)		13	6 名	東 7 階病棟 (管原清子)
	3	5 名	東 7 階病棟 (管原清子)		14	6 名	東 6 階病棟 (管原清子)
	4	6 名	東 6 階病棟 (管原清子)		15	6 名	西 9 階病棟 (倉本直樹)
	5	6 名	西 9 階病棟 (倉本直樹)		16	6 名	西 8 階病棟 (倉本直樹)
	6	6 名	西 8 階病棟 (倉本直樹)		17	6 名	西 6 階病棟 (倉本直樹)
	7	6 名	西 6 階病棟 (倉本直樹)		18	6 名	3-4 病棟 (荒井孝子)
静岡赤十 字病院	8	6 名	3-4 病棟 (荒井孝子)	静岡赤十 字病院	19	6 名	3-7 病棟 (荒井孝子)
	9	6 名	3-7 病棟 (荒井孝子)		20	6 名	3-8 病棟 (荒井孝子)
	10	6 名	3-8 病棟 (荒井孝子)		21	6 名	3-9 病棟 (荒井孝子)
	11	6 名	3-9 病棟 (荒井孝子)				

総学生数 123 名

2) アセスメント実習

平成 29 年 9 月 19～29 日、10 月 12～26 日、11 月 2～16 日

1 クール (9 月 19～22 日、10 月 12・26 日、11 月 9 日)				2 クール (9 月 26～29 日、10 月 19 日、11 月 2・16 日)			
病院	G	学生数	病棟 (教員)	病院	G	学生数	病棟 (教員)
静岡赤十字 病院	1	6 名	3-3 (荒井孝子)	静岡赤十字 病院	11	6 名	3-3 (荒井孝子)
	2	6 名	3-4 (荒井孝子)		12	6 名	3-4 (荒井孝子)
	3	5 名	3-5 (管原清子)		13	6 名	3-5 (管原清子)
	4	6 名	3-7 (非常勤・ 荒井孝子)		14	6 名	3-7 (非常勤・ 荒井孝子)
	5	6 名	3-9 (管原清子)		15	6 名	3-9 (管原清子)
静岡県立総合 病院	6	6 名	3E (倉本直樹)	静岡県立総合 病院	16	6 名	3E (倉本直樹)
	7	6 名	4A (松浦明美)		17	6 名	4A (松浦明美)
	8	6 名	4B (松浦明美)		18	6 名	4B (松浦明美)
	9	5 名	5G (渡邊順子)		19	6 名	5G (操華子)
	10	6 名	6A (渡邊順子)		20	6 名	6A (操華子)

学生数：118 名 実習総責任者 (統括)：荒井孝子

3) 公衆衛生基礎実習実習

平成 29 年 8 月 3 日

実習施設名	G	学生数	担当教員
静岡市上下水道局水道施設課 門屋浄水場・中島浄化センター	1	6名	深江久代 岩本真弓 安藤継子
	2	6名	
	3	6名	
	4	6名	
	5	6名	
	6	6名	
	7	6名	
	8	6名	
	9	6名	
	10	6名	
	11	5名	
静岡市沼上資源循環センター	12	6名	杉山真澄 佐藤瑠美 望月友美子
	13	6名	
	14	6名	
	15	6名	
	16	6名	
	17	6名	
	18	6名	
	19	5名	
	20	6名	
	21	5名	
	22	5名	

学生数：128名

総責任者：深江久代

4) 老年看護学実習 I

平成 29 年 2 月 13 日～3 月 2 日

実習期間		2 月 13 日 ～2 月 16 日		2 月 19 日 ～2 月 23 日		2 月 26 日 ～3 月 2 日	
施設	担当教員	G	学生数	G	学生数	G	学生数
介護老人保健施設 こみに	石垣範子	1	7 名	6	7 名	13	8 名
		2	7 名	7	7 名		
介護老人保健施設 ケアセンター瀬名	石川真			8	7 名	14	7 名
				9	7 名	15	7 名
介護老人保健施設 星のしずく	非常勤	3	6 名	10	6 名	16	8 名
介護老人保健施設 ケアセンター池田の街	石川真・ 根岸まゆみ	3	6 名	11	6 名		
介護老人保健施設 エスコートタウン静清	安田真美	5	8 名	12	6 名		

学生数：112 名

5) 3年次後期臨地実習配置表

G	人数	9月			10月				11月			12月			1月			2月															
		1クール		2クール	3クール		4クール		5クール		6クール		7クール		8クール		9クール		10クール		11クール												
		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	
		~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	~	
1	6	公衆衛生 I 富士宮市 望月		老年 瀬名・3F 静岡RH 非常勤	在宅 STみかど台 白萩 つばさ 酒井・非常勤	成人 II 静岡日赤 3-8 影山			成人 I てんかん・神経 医療 A2A6 影山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤								母性 県立総合 3D 石川	精神 溝口4F 作業所 近藤													
2	6	公衆衛生 I 富士宮市 深江		老年 小鹿・C 静岡RH 安田	在宅 つどいのおか STあおむし 桜ヶ丘 てんかん通園 今福	成人 II 県立総合 4E5A 飯塚			成人 I 県立総合 4D5B 糸川		小児 県立こども 鈴木和 非常勤								母性 静岡日赤 6-1 高木	精神 溝口3F 作業所 遠藤													
3	6	成人 I てんかん・神経 医療 A2A6 前野		老年 小鹿・A 甲賀 石垣	公衆衛生 I 長田 今磯	在宅 STみかど台 てんかん・神経 医療 つばさ 酒井・非常勤					成人 II 済生会 S3 石切山								精神 溝口2F 作業所 近藤	母性 静岡日赤 6-1 高木													
4	6	母性 静岡日赤 6-1 高木		老年 瀬名・北 静岡RH 石川	公衆衛生 I 長田 安藤	在宅 STあみ 桜ヶ丘 ライラック 今福			成人 II がんセンター 10西8東6西 青木		小児 県立こども 鈴木和 非常勤								精神 溝口1F 作業所 遠藤														
5	6	母性 焼津市立 3A 永谷	リハ パーク実習	小児 県立こども 鈴木和 非常勤	老年 瀬名・2F 静岡RH 非常勤	公衆衛生 I 東部 佐藤					精神 県立こども南1 作業所 村方			成人 I てんかん・神経 医療 A2A6 影山				成人 II 県立総合 4A5A 鈴木琴	在宅 STしずおか 桜ヶ丘 いこい 酒井														
6	6	母性 県立総合 3D 石川	重心 施設・ 医療 機関 オリエン テーシ ョン (在宅)	公衆衛生 I 蒲原 杉山	老年 小鹿・B 甲賀 石垣	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			在宅 STマザー STふれあい てんかん・神経医 療 てんかん通園 今福		精神 溝口2F 作業所 長澤			成人 I 県立総合 4B4D 飯塚				成人 II 済生会 S5 影山															
7	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤		公衆衛生 I 蒲原 岩本	老年 瀬名・北 静岡RH 石川	成人 I てんかん・神経 医療 A2A6 前野			成人 II 静岡日赤 2-6 飯塚		在宅 ST清水 桜ヶ丘 いこい 酒井			精神 溝口2F 作業所 近藤				母性 済生会 N3N4 永谷	精神 溝口3F 作業所 遠藤														
8	6	老年 小鹿・B 甲賀 石垣		公衆衛生 I 南部 今磯	成人 II がんセンター 7西6西5西 鈴木琴	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			在宅 ST駿河 白萩 つばさ 田中		母性 済生会 N3N4 永谷			精神 溝口3F 作業所 遠藤				成人 I 県立総合 5G6C 糸川															
9	6	老年 瀬名・2F 静岡RH 石川		母性 県立総合 3D 石川	公衆衛生 I 清水 杉山	小児 県立こども 鈴木和 非常勤			精神 溝口3F 作業所 村方		在宅 ST駿河 白萩 つばさ 田中			成人 II 静岡日赤 3-8 田中				成人 I 県立総合 4B4G 前野															
10	6	老年 小鹿・A 静岡RH 安田		母性 藤枝市立 4A 永谷	公衆衛生 I 清水 岩本	精神 県立こども北1 作業所 近藤					成人 II 静岡日赤 2-5 糸川			在宅 ST清水 桜ヶ丘 つばさ 田中				小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤	成人 I 県立総合 4D5B 糸川														

G	人数	9月				10月				11月				12月				1月				2月				
		1クール		2クール		3クール		4クール		5クール		6クール		7クール		8クール		9クール		10クール		11クール				
		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19
8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	
11	6	老年 瀬名・3F 静清RH 非常勤		公衆衛生 I 南部 望月				母性 市立静岡 西4 福島		精神 溝口4F 作業所 近藤		成人 I 静岡日赤 3-9 飯塚		在宅 曲金ST 桜ヶ丘 てんかん通園 富安・非常勤			小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤		成人 II がんセンター 10東7西5西 青木							
12	6	成人 I 県立総合 4G5G 木元		精神 県立こども南2 作業所 長澤		母性 藤枝市立 4A 福島		公衆衛生 I 東部 安藤		老年 山の上 本館3F西館3F 非常勤		在宅 曲金ST 桜ヶ丘 てんかん通園 今福・非常勤		成人 II 済生会 S3 石切山		小児 県立こども 藤枝市立 鈴木和 非常勤										
13	6			成人 II 県立総合 4E5A 前野		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		母性 焼津市立 3A 永谷		公衆衛生 I 焼津市 杉山		精神 溝口1F 作業所 遠藤		老年 山の上 本館3F西館3F 石川		成人 I 済生会 S9 飯塚							在宅 STしずおか 桜ヶ丘 いこい 酒井			
14	6	精神 県立こども北2 作業所 長澤		在宅 ST駿河 白萩 ライラック 田中		成人 I 済生会 S10 影山		老年 小島・C 静清RH 非常勤		公衆衛生 I 焼津市 望月		母性 市立静岡 西4 高木		成人 II 県立総合 4A5A 鈴木琴			小児 県立こども 鈴木和 非常勤									
15	6	精神 溝口1F 作業所 遠藤	リハバ パーク実習	成人 I てんかん・神 経医療 A2A6 糸川		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		老年 小島・A 静岡RH 石垣	リハバ パーク実習	公衆衛生 I 牧之原市 佐藤・深江				母性 県立総合 3D 石川		在宅 STみかど台 桜ヶ丘 つばさ 酒井・非常勤		成人 II 県立総合 3E4E 飯塚								
16	5	精神 溝口4F 作業所 近藤	重心施設・ 医療機関 オリエン テーション (在宅)	成人 I 県立総合 4D5B 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤			重心施設・ 医療機関 オリエン テーション (在宅)	公衆衛生 I 牧之原市 岩本		成人 II がんセンター 10東7西5西 青木		母性 静岡日赤 6-1 高木		老年 山の上・西館 2F 静岡リウマチ 石垣				在宅 STほたる 白萩 つばさ 田中・非常勤						
17	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤		成人 II 静岡日赤 2-5 影山		成人 I 静岡日赤 3-6 山田(紋)		精神 県立こども南1 作業所 遠藤		母性 市立静岡 西4 福島		公衆衛生 I 島田市 深江		老年 山の上・西館 2F 静岡リウマチ 石垣		在宅 STふれあい つどいのおか ST 桜ヶ丘 てんかん通園 今福・非常勤										
18	6	小児 県立こども 鈴木和 非常勤		精神 県立こども南1 作業所 村方		成人 II がんセンター 10西10東8東 石切山		成人 I 静岡日赤 3-6 山田(紋)		老年 小島・B 静岡リウマチ 石垣		公衆衛生 I 島田市 安藤		母性 済生会 N3N4 福島		在宅 ST清水 てんかん・神経 医療 てんかん通園 田中										
19	6	成人 II がんセンター 10西10東8東 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		精神 県立こども南2 作業所 遠藤		成人 I 県立総合 5B6C 鈴木琴		老年 山の上・西2F 静清RH 石川		公衆衛生 I 吉田町 今磯			母性 済生会 N3N4 福島		在宅 STほたる 白萩 つばさ 富安・非常勤									
20	6	成人 II がんセンター 7西6西5西 田中		小児 県立こども 鈴木和 非常勤		精神 県立こども北2 作業所 近藤		成人 I 静岡日赤 2-7 石切山		在宅 STあみ 桜ヶ丘 いこい 酒井・非常勤		公衆衛生 I 吉田町 望月		母性 焼津市立 3A 永谷		老年 山の上・本館 3F 静清RH 非常勤										
21	6	公衆衛生 I 富士市 安藤		在宅 STあみ てんかん・神 経医療 てんかん通園 今福		母性 市立静岡 西4 高木		老年 山の上・西館 2F 静岡RH 石川		精神 県立こども北1 作業所 長澤				成人 I 静岡日赤 3-6 山田(紋)		成人 II がんセンター 10西8東6西 石切山		小児 県立こども 鈴木和 非常勤								
編入	5																									公衆衛生 I 富士市 岩本、深江
編入	5																									公衆衛生 I 富士市 佐藤、深江

総学生数 135名

6) 成人看護学実習Ⅲ

施設	日程	G	チーム	人数	教員
静岡赤十字 病院	6月12日～ 6月16日	1	A	3名	影山葉子
			B	3名	
		2	A	3名	山田紋子
			B	3名	
		3	A	3名	木元千奈美
			B	3名	
		4	A	3名	飯塚真樹
			B	3名	
		5	A	3名	糸川紅子
			B	3名	
	6月19日～ 6月23日	6	A	3名	影山葉子
			B	3名	
		7	A	3名	山田紋子
			B	3名	
		8	A	3名	木元千奈美
			B	3名	
		9	A	3名	飯塚真樹
			B	3名	
		10	A	3名	糸川紅子
B			3名		
7月3日～ 7月7日	11	A	3名	影山葉子	
		B	3名		
	12	A	3名	石切山千恵	
		B	3名		
	13	A	3名	前野真由美	
		B	3名		
	14	A	3名	飯塚真樹	
		B	3名		
	15	A	3名	青木和恵	
		B	3名		
7月10日～ 7月14日	16	A	3名	影山葉子	
		B	3名		
	17	A	3名	石切山千恵	
		B	3名		
	18	A	3名	前野真由美	
		B	3名		
	19	A	3名	飯塚真樹	
		B	3名		

施設	日程	G	チーム	人数	教員	
シミュレーション実習	6月12日～ 6月16日	6	A	3名	田中範佳 鈴木琴江	
			B	3名		
		7	A	3名		
			B	3名		
		8	A	3名		
			B	3名		
		9	A	3名		
			B	3名		
		10	A	3名		
			B	3名		
		6月19日～ 6月23日	1	A		3名
				B		3名
	2		A	3名		
			B	3名		
	3		A	3名		
			B	3名		
	4		A	3名		
			B	3名		
	5		A	3名		
			B	3名		
	7月3日～ 7月7日	16	A	3名		
			B	3名		
		17	A	3名		
			B	3名		
18		A	3名			
		B	3名			
19		A	3名			
		B	3名			
7月10日～ 7月14日	11	A	3名			
		B	3名			
	12	A	3名			
		B	3名			
	13	A	3名			
		B	3名			
	14	A	3名			
		B	3名			
	15	A	3名			
		B	3名			

成人看護実習Ⅲ責任者：山田紋子

7) 公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政・学校・産業）

公衆衛生看護学実習Ⅱ（行政）

保健所	施設	学生数	実習期間			
			5月22日 ～6月2日	6月5日～ 6月16日	6月19日～ 6月30日	7月3日～ 7月14日
富士保健福祉センター	富士市保健センター	5名	安藤継子			
	富士宮市保健センター	5名	岩本真弓			
中部健康福祉センター	焼津市保健センター	10名	非常勤・ 深江久代		非常勤・ 杉山真澄	
	島田市保健福祉センター	6名	佐藤瑠美			
	吉田町保健センター	5名		佐藤瑠美		
	牧之原市保健センター	5名				岩本真弓
静岡市保健所	北部保健福祉センター	5名				安藤継子
	藁科保健福祉センター	5名			佐藤瑠美	
	長田保健福祉センター	5名		安藤継子		
	蒲原保健福祉センター	5名				佐藤瑠美
	清水保健福祉センター	5名		非常勤・ 深江久代		
	大里保健福祉センター	5名			安藤継子	

公衆衛生看護学実習Ⅱ（産業）

	施設	学生数	実習期間			
			5月22日 ～6月2日	6月5日～ 6月16日	6月19日～ 6月30日	7月3日～ 7月14日
事業所	三菱電機(株)静岡製作所	10名	望月友美子			今磯純子
	JR 東海 健康管理センター 静岡健康管理室	8名		今磯純子		望月友美子
	日立ジョンソンコントロールズ 空調(株)	8名	今磯純子		望月友美子	
	ジヤトコ(株)	10名		望月友美子	今磯純子	

公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校）

	施設	学生数	実習期間			
			5月22日 ～6月2日	6月5日～ 6月16日	6月19日～ 6月30日	7月3日～ 7月14日
学校	静岡市立中田小学校 県立中央特別支援学校	3名	杉山眞澄			
	静岡市立賤機中学校 県立静岡北特別支援学校	3名		岩本真弓		
	静岡市立安西小学校 県立清水特別支援学校	3名			岩本真弓	
	静岡市立竜南小学校 県立静岡南部特別支援学校	3名				杉山眞澄
	児童心理治療施設 静岡県立吉原林間学園	12名	7月19日			
			杉山眞澄・岩本真弓			

学生数 114名

総責任者：深江久代

8) 国際保健・看護学実習

	施設	学生数	実習期間
			8月21日～9月1日
	コンケン大学	2名	今磯純子

9) 大学院修士課程助産学分野 助産学実習

科目	学年	実習期間	実習施設	学生人数	担当教員
助産学演習 A-II (妊婦健康診査実習)	1	6月19日～ 7月28日 (2回火・木/週)	静岡済生会総合病院	1	鈴木恵
			静岡県立総合病院	2	藤田景子
			静岡赤十字病院	3	中川有加 山田貴代
助産学演習 B-V (助産準備実習)	1	9月25日～ 10月6日	静岡済生会総合病院	1	鈴木恵
			静岡県立総合病院	2	藤田景子
			静岡赤十字病院	3	中川有加 山田貴代
助産学応用 実習 B-I	1	10月10日～ 12月8日	静岡済生会総合病院	1	鈴木恵
			静岡県立総合病院	2	藤田景子
			静岡赤十字病院	3	中川有加 山田貴代
助産学演習 B-II (NICU 実習)	1	1月29日～ 2月2日	静岡済生会総合病院	2	山田貴代
			聖隷浜松病院	2	藤田景子
			静岡県立こども病院	1	中川有加
助産学応用 実習 B-II	1	8月末 9月4日～15日	くさの助産院	1	山田貴代
		9月4日～15日	渡辺助産院	2	藤田景子
		9月4日～15日	エスアールハウス	1	中川有加
		9月4日～15日	おしか助産院	2	鈴木恵
助産学応用 実習 A	2	5月～6月 (うち10日)	渡辺助産院	1	太田尚子 藤田景子
		5月～6月 (うち15日)	おしか助産院	1	鈴木恵

実習総責任者 太田尚子

5. 学生の研究

1) 学部の指導体制と研究テーマ

昨年度と同様に教員の学生担当数は、基礎医学・保健学領域は教員ごと、看護学領域は領域ごとに設定し、教員および学生の卒業研究調整委員ができるだけ希望に添うように調整した。看護学領域の教員ごとの担当学生は領域内で調整した。指導教員の指導の下に学生は、約1年かけて研究テーマを追求し論文としてまとめた。結果、表4-2-1にあげた卒業研究が提出された。その研究要旨は、「平成29年度卒業論文要旨集」として発刊し、臨地実習施設ならびに臨地実習機関等に配布した。

表 4-2-1 平成 29 年度看護学部卒業研究題目一覧

学籍番号	氏名	卒業研究題目	指導教員
1315051	望月麻芙	へき地における保健師の母子保健活動についての文献検討-住民活動に焦点を当てて-	佐藤瑠美
1315054	山下あゆみ	児が NICU に入院した母親の心理状態と愛着形成を促す看護援助についての検討	石川紀子
1415001	青嶋桃子	認知症高齢者の終末期における家族の代理意思決定に関連して生じる困難感に対する支援について-文献検討による考察-	安田真美
1415002	赤堀紫帆	ディーゼル排気ガスの長期曝露による肺がんリスク評価	三崎健太郎
1415003	井川加乃	PM2.5 の呼吸器疾患発生との関連調査	三崎健太郎
1415004	石塚美沙輝	術後の悪心・嘔吐に対するアロマセラピーの有効性の検討：メタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415005	伊藤千里	在宅生活継続への困難を抱える認知症高齢者と家族への支援	田中悠美
1415006	伊藤暖	正常者の大脳白質における“白質変化”に関する研究-経過に着目して-	荒井孝子
1415007	稲葉薫	母親の出産満足度を高める要因	石川紀子
1415008	伊原志織	精神疾患をもつ患者の自己表現を促す支援方法についての文献検討	遠藤りら
1415009	今泉佑理	卒後の看護職者が抱えるメンタルヘルス上の問題-職種別比較-	篁宗一
1415010	岩田佳緒里	認知症高齢者に対して看護師が実施するハンドマッサージがもたらす影響-看護小規模多機能型居宅介護において-	富安眞理

1415011	植松由紀	手袋の着脱が求められる清潔ケアにおける看護師の手指衛生の実態：WHO が提言する 5 つのモーメントに焦点をあてて	操華子
1415012	内田友梨	大気汚染物質とアレルギー悪化の関連に係る研究-文献的考察-	井上健一郎
1415013	内田佳治	精神的ストレスに対する精神性発汗の変化に関する検討	金澤寛明
1415014	梅原麻帆	出産直後から退院までの期間における愛着促進のための母子に対する看護師の関わりに関する文献検討	石川紀子
1415015	遠藤萌里	incentive spirometry を使用した呼吸訓練による術後肺合併症に関する検討：メタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415016	及川裕樹	人工呼吸器による機械的換気に伴う肺炎に対する有効な体位の検討：メタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415017	大石芽生	出生前診断で胎児異常を診断され、妊娠を継続した妊婦の心理とその看護	永谷実穂
1415018	大石梨央	子どもの NICU 入院により母子分離となった両親の心理とそれに対する援助	鈴木恵
1415019	大石莉奈	鏡を用いた整容が認知障害のある高齢者のセルフケア能力や意欲に与える効果に関する研究	渡邊順子
1415020	大川佳穂	高齢者の津波避難に対する意思決定に影響を与える要因—自主防災活動に従事する高齢者に焦点を当てて—	酒井知子
1415021	大島こころ	精神疾患に伴う陽性症状に対する看護師の対応の検討	長澤利枝
1415023	大野涼帆	術前の深呼吸による術後の呼吸機能向上に関するメタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415024	大橋明莉	在宅生活を送る独居高齢者が抱える健康に対する不安について	石垣範子
1415025	大林葵	在宅パーキンソン病患者の家族の介護負担と支援に関する文献研究	深江久代 岩本真弓
1415026	岡田華歩	望まない妊娠をした母親の妊娠期から育児期における児への愛着形成のプロセスに関連する要因と看護援助	藤田景子
1415027	奥田紫苑	自閉症スペクトラム障害 (ASD) 児のコミュニケーション能力に対する効果的支援の検討	長澤利枝
1415028	小原未希	被災した妊産婦の思いと助産師の支援	藤田景子
1415030	片山依奈	在宅パーキンソン病高齢者の生活上の課題と対処に関する研究～コミュニケーションに焦点を当てて～	富安眞理

1415031	勝亦恵理香	ICU において発生する輸液ポンプのアラームに関する調査研究	倉本直樹 渡邊順子
1415032	加藤栞	産後 1 ヶ月における育児不安の実態と育児不安軽減のための効果的な看護の在り方について	永谷実穂
1415034	川崎彩花	発達障害児をもつ母親の困難に関する文献検討	近藤美保
1415035	菅野桃子	在宅難病患者の地震災害時における被災実態及び支援体制と支援の在り方についての文献検討	深江久代 岩本真弓
1415036	倉島愛	訪問看護ステーションにおける在宅神経難病患者に対する災害支援の現状と課題	今福恵子
1415037	黒住玲央	高齢者の日常生活動作の維持・向上のための支援についての文献検討～日常生活動作と運動機能に焦点を当てて～	酒井知子
1415038	小菅春佳	精神疾患患者の入院長期化の背景と退院支援における効果的なアプローチの検討	遠藤りら
1415039	後藤はるな	病院内で実施され医療者が関わるがん患者の集いの実態調査	鈴木琴江 木元千奈美
1415040	小長井綾乃	高校生の精神的健康と援助希求の実態を踏まえた支援法の検討	篁宗一
1415041	小林千紘	認知症高齢者を介護する家族の心理的変化～認知症高齢者への思いや介護に関連して抱く思いに着目して～	石垣範子
1415042	小柳亜依美	急性期病院から在宅を目指す脳卒中患者の在宅復帰促進に関する文献検討―「急性期病院」と「回復期病院」から在宅への比較を通して―	前野真由美
1415043	近藤まりも	静岡県立大学における学生の感染症に関する調査と針刺し事故予防のための講習会の意義	古賀震
1415044	齋藤祐佳	中学生のメンタルヘルスリテラシー教育の開発と評価	篁宗一
1415045	済藤友香	摂食嚥下障害患者に対する食事援助における看護師・言語聴覚士の役割認識と援助方法	石川真
1415046	坂田薫	中壮年期における生活習慣病予防に視点を当てた運動習慣の継続に関連する要因	望月友美子 杉山眞澄
1415047	坂本真由美	胃瘻栄養管理をしている重症心身障害児へのミキサー食導入による児とその家族の身体的・精神的変化について―家族の意見に焦点をあてて―	鈴木和香子

1415048	佐藤初音	在宅で医療的ケアを必要とする重症心身障害児を持つ家族の災害準備に関する文献研究～訪問看護師の支援のあり方を考察する～	今福恵子
1415049	佐藤文	化学療法を受けて口内炎を発症した癌患者における口腔ケアの効果的な介入方法	前野真由美
1415050	佐藤穂友実	手術に関連した不安に対する術前教育の有効性の検討：メタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415052	重田彩瑛	栄養と疾患に関する知識と食生活の関連－看護学部学生と非医療系学部学生の比較から－	高林ふみ代
1415053	清水麻那	ALS 患者が辿る心理的状态に対する看護支援についての文献検討	深江久代 岩本真弓
1415054	清水美帆	国内の看護文献にみる外来化学療法を受ける乳がん患者の日常生活における困難	山田紋子 影山葉子
1415055	志村茉美	在宅療養高齢者の服薬管理における訪問看護師と薬剤師の介入比較と服薬管理支援の将来像の考察	高林ふみ代
1415056	杉山和也	終末期がん患者の家族の悲嘆に対する看護ケアについての国内文献の検討	影山葉子 山田紋子
1415057	杉山七海	家族が終末期がん患者との関わりの中で人間的な成長をするための看護に関する文献検討	糸川紅子
1415058	杉山未典	乳幼児期の児を持つ母親の育児困難感の要因となる夫婦の関係性や夫からの関わり	鈴木恵
1415059	鈴木華穂	ストーマケア病棟で求められる新しい援助のあり方－標準化と個別化の共存の実現に向けて－	青木和恵 飯塚真樹
1415060	鈴木紗羅	未成年の喫煙状況に対する効果的なアプローチに関する文献検討	西川浩昭
1415061	鈴木静恵	高齢の胃癌患者の術後予後について－腹腔鏡下胃切除術に焦点を当てて－	鈴木琴江 木元千奈美
1415062	鈴木千晶	仮設住宅で生活する高齢者の支援について～高齢者の孤立に着目して～	今福恵子
1415063	鈴木菜摘	初産の母親の育児不安に対する新生児訪問指導及びこんにちは赤ちゃん事業における支援方法の検討	杉山眞澄 望月友美子
1415064	鈴木秀佳	フリースタイル分娩を体験した褥婦の意識	山田貴代
1415065	鈴木舞	がん患者の看取りに対する訪問看護師の困難 - 訪問看護師のインタビューからみえた解決策 -	荒井孝子 松浦明美
1415066	鈴木美里	低出生体重児の出産後、母子分離となった母親の思いとその看護	永谷実穂

1415067	須田美穂	新システムにおける人工肛門造設者の受容過程	青木和恵 飯塚真樹
1415068	関口葵	心臓手術を受ける患者の不安に対する術前教育の有効性に関するメタ分析	田中範佳 石切山千恵
1415070	高田真帆	精神科長期入院患者への退院を支援する看護実践方法に関する文献レビュー	村方多鶴子
1415071	高野真衣	中山間地域で終末期がん療養者の在宅看取りを担う家族への訪問看護支援の特徴	富安眞理
1415072	高橋晃子	療養病床における介護職員のターミナルケア態度の実態調査	石川真
1415073	高橋鮎音	運動習慣獲得を促進するための要因	西川浩昭
1415074	高柳衣里	皮膚・排泄ケア認定看護師による消化管ストーマ造設患者への看護の実際と今後の課題	菅原清子
1415075	竹尾菜南	看護学生の臨地実習におけるストレスとレジリエンスの関連について	鈴木琴江 木元千奈美
1415076	田代大介	先天性心疾患を抱える患者の成人期における自立に向けた看護の検討	鈴木和香子
1415077	立林寛太	メンタルヘルスリテラシー教育と精神疾患を有する人との関わりの有効性の文献検討	近藤美保
1415078	田中由季恵	周産期における父親への支援	福島恭子
1415079	田村海紘	療養上の必要事項を遵守できない患者に対する有効な看護師の関わりに関する文献検討	糸川紅子
1415080	鶴田千夏	院内助産の現状とそれを阻む要因	太田尚子
1415081	永井花奈	女子大学生における食後血糖値と糖尿病家族歴および食事の関連	濱井妙子
1415082	長澤志保	一般病院における認知症高齢者との関わりの中で抱く看護師の困難感軽減に向けての検討	安田真美
1415083	中間優芽	臨床における看護師の医療安全対策について－誤薬予防に焦点を当てて－	高林ふみ代
1415084	仲村歩紗	乳幼児期の重症心身障害児を養育する母親の体験と心情に関する文献検討	今磯純子 安藤継子
1415085	中村岬	周産期における児童虐待早期発見のためのリスク要因－妊娠期から虐待リスクを発見するために－	藤田景子
1415086	成瀬彩夏	18 トリソミー児とその家族が限られた時間を共に過ごすために医療者が行う支援の現状と今後の課題	山田貴代

1415087	新坂実央	重症心身障害児者と生活するきょうだいの悩みに関する文献検討～きょうだい自身と親の視点から～	今磯純子 安藤継子
1415088	西尾夢来	母乳育児における母親が抱く困難とより良い母乳育児支援	太田尚子
1415089	西島愛理	がん終末期にある後期高齢者の在宅療養支援に関する研究-ふたり暮らし夫婦の生活上の困難に焦点を当てて-	田中悠美
1415090	西山こころ	正常者の大脳白質における“白質変化”に関する研究-eGFRに着目して-	荒井孝子
1415091	早川摩耶	統合失調症患者の再入院を防ぐための効果的な看護ケアに関する文献検討	村方多鶴子
1415092	林実乃理	非がん患者の終末期における呼吸困難に対する非薬物療法に関する文献検討-慢性期と終末期の比較から-	前野真由美
1415093	原川真緒	外来化学療法を受ける患者の副作用に対する看護師のセルフケア支援	青木和恵 飯塚真樹
1415094	福島裕	治療的活動が精神疾患患者に与える精神的・身体的効果について	長澤利枝
1415095	福本美晴	がん専門病院における「AYA 世代病棟」設置の意義	青木和恵 飯塚真樹
1415096	藤代実里	乳児期における保健師の有効な母親支援-生後3～4ヵ月児を中心として-	杉山眞澄 望月友美子
1415097	藤塚けい子	ユマニチュード実践が看護師と認知症高齢者にもたらす変化と効果	安田真美
1415098	二川遥	クローン病患者の自己管理行動を支援する看護援助に関する文献検討	糸川紅子
1415099	古田早紀	無痛分娩を選択した女性の体験と産婦に対する医療者の意識	中川有加
1415100	不破彩伽	NICU 入院児と母親の愛着形成に関する支援について	福島恭子
1415102	松田佳子	中学生の子を持つ両親の家庭における性教育の実態と進まない要因	太田尚子
1415103	松本千佳	統合失調症患者の自殺企図・自傷行為の頻度を入院後に減らした看護師の関わり方に関する文献検討	村方多鶴子
1415104	馬淵涼子	国内の看護文献にみる終末期がん患者の看護ケアにおける一般病棟の看護師の困難	山田紋子 影山葉子
1415105	丸地彩加	子どもの発達障害が診断される前後における母親の心理的变化	杉山眞澄 望月友美子

1415106	水野紗耶香	脊椎疾患の手術における機能の改善度と手術後患者の QOL の特徴	鈴木琴江 木元千奈美
1415107	水野萌	高齢者の水分摂取状況と介入に関する文献検討	西川浩昭
1415108	三宅麻友	剤形の違いによる速乾性手指消毒剤効果の比較検討	濱井妙子
1415109	宮本恵理	へき地における未就学児の子育ての現状と課題の検討	杉山眞澄 望月友美子
1415110	武藤真里奈	ハッカ油を用いた温罨法が排便促進に及ぼす効果	渡邊順子
1415111	村松亜里沙	ペリネイタル・ロスを経験した親のケアニーズ	福島恭子
1415112	村松愛美	ダウン症児を出産した母親の心理過程とケアニーズ	高木静
1415114	森井美里	質の高い出産体験とは何か～出産体験の質に影響する要因からの検討～	高木静
1415115	森田麻友	産褥 1 か月までにおけるローリスクの母親の愛着形成に影響を及ぼす因子の探求	中川有加
1415116	山田知香	認知症のあるがん患者の治療の意思決定支援に関する国内の看護文献の検討	影山葉子 山田紋子
1415117	山田ゆい	地域高齢者のボランティア活動による効果と参加者特性からみた支援のあり方についての文献検討	深江久代 岩本真弓
1415118	山田幸也	身体運動時の生理現象の検討	金澤寛明
1415119	吉澤めい	術後早期イレウスのリスクファクターとしての性差	鈴木琴江 木元千奈美
1615121	阿部彩	女性が出産体験を肯定的に捉えるための行動と体験および影響する助産ケア	中川有加
1615122	井上友紀	保健師活動のための高齢者のソーシャル・キャピタルの地域特性に関する文献検討	佐藤瑠美
1615123	岩崎早代	地域包括ケアシステム構築に向けた保健師の取り組みについてー地域包括支援センター保健師のあり方に焦点をあててー	佐藤瑠美
1615124	岩崎正典	終末期がん患者の家族が抱える苦悩や心の揺らぎとその支援に関する文献検討	糸川紅子
1615125	太田智美	筋萎縮性側索硬化症患者の家族が抱く心情に対する文献検討	深江久代 岩本真弓
1615126	梶山澄怜	地域特性に応じたソーシャル・キャピタルと地域活動についての文献検討	佐藤瑠美

1615127	笹山可奈実	統合失調症をもつ人の社会参加の促進要因と阻害要因に関する文献検討	今磯純子 安藤継子
1615128	谷大智	肺炎の基礎疾患の解析と治療、予防対策および看護の役割	古賀震
1615129	松本美穂	肥満と慢性炎症による眼底異常およびその予防策に関する研究	古賀震
1615130	村松生吹	母親が児童虐待に至るおそれのある家族環境に関する文献検討	今磯純子 安藤継子

V. 学生生活

1. 学生定員および在籍学生数

1) 学部

看護学部の入学定員は1年次120名、3年次編入学10名であり、収容定員は計370名である。過去3年間の在籍者数を表5-1-1に示した。

表 5-1-1 学部定員および在籍者数

年度	学部定員	在籍者数
H26年度	305	306
H27年度	370	369
H28年度	435	435

表 5-1-2 学部定員および学生数

	1年生	2年生	3年生	3年編入生	4年生	4年編入生	合計
学部定員	120	120	130		65		435
在籍者数	120	128	115	10	52	10	435
休学者数	0	3	1	0	0	0	0
退学者数	2	0	0	0	0	0	0

※在籍者数は27年度当初、休学者は27年度末、退学者数は27年度内の数字

2) 研究科

看護学研究科の入学定員は16名、収容定員は32名である。H27年度の在籍者数は、表5-1-2に示すとおり、1年8名、2年11名である。

表 5-1-3 研究科定員および在籍学生数

	1年生	2年生	合計
入学定員	16	16	32
在籍者数	7	8	15
休学者数	0	0	0
退学者数	0	0	0

※在籍者数は27年度当初、休学者は27年度末、退学者数は27年度内の数字

2. 入学志願者数および入学者数とその背景

1) 学部

各入学試験志願者数（受験者数）は一般前期 202(193)→157(151)、一般後期 139(43)→67(19)、社会人入試 11(11)→8(8)、推薦入試 114(114)→116(116)、編入学特別選抜 19(17)→10(8)であった。一般入試の志願倍率は、約 2 倍と例年の数値に戻り定着した感がある。一方編入学試験における合格者の定員割れに関しては、保健師課程を有しないコースの設定が大きく寄与していたと考察する。

表 5-2-1 平成 30 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	157	151	71	67
一般後期	5	67	19	7	7
推薦	45	116	116	45	45
社会人	若干名	8	8	1	1
編入学	25	10	8	6	5
合計	145	358	302	130	125

※県内出身の入学者は 107 名（編入生を除いて）

表 5-2-2 平成 29 年度入学志願者数および入学者数

	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
一般前期	70	202	193	72	68
一般後期	5	139	43	6	5
推薦	45	114	114	46	46
社会人	若干名	11	11	1	1
編入学	10	19	17	11	10
合計	130	485	378	136	130

※県内出身の入学者は 104 名（編入生を除いて）

2) 研究科

平成 30 年度入試の入学志願者数は看護学研究科の一次募集において 13 名、二次募集において 3 名であった（延べ 16 名）。選抜区分としては一般選抜での出願者が 15 名で、社会人特別選抜での出願が 1 名であった。今年度に関しては本学看護学部からの出願者が 8 名と多く、それ以外の者については他大学を卒業者または専門学校卒業者（事前資格審査を経た）であった。また一次の合格者の内 1 名の辞退者があったものの、二次の合格者は発表後にいずれも入学手続きを行った。最終的な入学者数は 10 名であった。研究科全体としては志願者数が平成 29 年度よりも減少した。また、平成 30 年度入学者では、助産学を専攻する者が 6 名と平成 29 年度と同様に多かった。

表 4-2-3 研究科の入学志願者数および入学者数とその背景

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
入学志願者	20	12	8	9	21	16
入学者数	13	8	8	7	13	10
（うち社会人特別入学）	(6)	(2)	(5)	(3)	(4)	(1)

3. 卒業・修了生の進路状況

1) 学部

過去3年間の卒業後の進路を表5-3-1に示した。(平成30年3月31日現在)

表5-3-1 学部卒業生進路

年度	性別	卒業者数	就職決定者数	就職活動中	その他	採用職種別			施設の場所		進学・留学
						看護師	保健師	その他	県内	県外	
平成27年度	男	8	7	—	1	7	—	—	5	2	—
	女	56	53	—	2	47	5	1	43	10	1
	計	64	60	—	3	54	5	1	48	12	1
平成28年度	男	1	1	—	0	1	—	—	1	0	—
	女	61	52	—	4	47	4	—	39	13	5
	計	62	53	—	4	48	4	—	40	13	5
平成29年度	男	10	9	—	0	9	—	—	7	2	1
	女	114	104	—	4	92	12	—	73	19	6
	計	124	113	—	4	101	12	—	80	21	7

専門学校の助産師コース等に進学する卒業生については、「その他※」にカウントしている。

2) 研究科

平成 29 年度の修了生は 4 名である。本年度の修了後の進路状況は、表 5-3-2 に示すとおりである。助産学分野の修了生は助産師に、その他分野は社会人学生が多いため現職である看護師を継続する傾向である。

表 5-3-2 修了後の進路状況

年度	修了生	採用職種別					進学
		看護師	保健師	助産師	教職	その他	留学
平成 25 年度	7	1	0	2	0	4	0
平成 26 年度	12	1	0	5	3	3	0
平成 27 年度	11	3	0	7	1	0	0
平成 28 年度	7	3	1	3	0	0	0
平成 29 年度	4	1	1	1	0	1	0

4. 免許・資格などの取得状況

過去 3 年間の新卒者の看護師・保健師・助産師の国家資格取得状況を表 5-3-3 に示した。平成 29 年度の全国合格率は、看護師 100.0%、保健師 91.2%、助産師 100.0% であった。

表 5-3-3 免許・資格などの取得状況

年度	看護師	保健師	助産師
平成 27 年度 (新卒者)	53/54	52/54	7/7
	(98.1)	(96.2)	(100.0)
平成 28 年度	52/52	61/62	3/3
	(100.0)	(98.3)	(100.0)
平成 29 年度	114/114	104/114	1/1
	(100.0)	(91.2)	(100.0)

() 内は合格者数/受験者数の百分率

VI.国際交流

1. 平成 29 年度国際交流等事業

1) 第3回 静岡県立大学看護学部とコンケン大学看護学部間の短期交換留学事業 (コンケン大学看護学部生の受け入れ)

平成 29(2017)年度の短期交換留学事業として、平成 29 年 7 月 21 日から 8 月 1 日までコンケン大学看護学部の 2 年生 2 名 (Ms. Natchaya Puemgul、Ms. Daranee Khangrang) を受け入れた。今年度はコンケン大学看護学部の都合で学生の受入日程が二転三転した。宿泊施設は、昨年同様に静岡県職員研修施設であるもくせい会館、ならびに、ホームステイを組み合わせた。昨年度は企画調整室の国際交流事務局担当者の支援をうけホストファミリーを紹介していただいたが、今年度からは看護学部独自で交渉するよういわれ、昨年度と同じホストファミリーに引き受けていただいた。大学のホストファミリー登録の手続きの流れは昨年度と同様である。

本事業は看護学部教員全員で取り組む学部の事業である。効果的なプログラムを作成するために、看護学部各領域に協力を得た。今年度は受入時期が定期試験期間と重なったため、病院見学実習などの日程調整が難しかった。プログラムは次のとおりである。①学内の講義・演習：災害看護演習への参加、シミュレーション患者と学生のアセスメントの DVD 視聴、日本とタイの医療・介護制度に関する情報交換 (国際保健・看護実習の履修生 2 名によるプレゼンテーションとコンケン学生とのディスカッション) など、②実習施設訪問・実習参加：がんセンター、介護老人保健施設、

訪問看護ステーション、③学生・教員との文化交流、④交換留学の報告会。留学生はタイと日本の看護ケアや医療システム、医療技術、高齢者ケアを比較しながら、多くのことを学んでいた。



コンケン大学看護学部生 2 名の歓迎・文化交流会
(2017 年 7 月 24 日)



2) 国際保健・看護実習の実施にむけて、コンケン大学看護学部との協議

平成 29 年度は、コンケン大学との調整により、国際保健・看護実習が開始された。国際保健・看護実習は、国内だけでなく海外にも目を向けグローバルな視点から人や環境を理解し看護活動を考えるきっかけとなることを主眼とした。本実習は 4 年生前期開講の選択科目（2 単位）であり、今年度選択した学生は 2 名であった。尚、本実習は今年度初めての実施であったことから、平成 29 年 8 月 21 日（月）～9 月 1 日（金）の全実習期間を教員 1 名が引率した。実習施設は、コンケン大学看護学部 (Faculty of Nursing, Khon Kaen University) を拠点とし、コンケン大学医学部附属シーナカリン病院 (Srinagarind Hospital, Faculty of Medicine, Khon Kaen University)、プライマリ・ケア・ユニット (PUC: Primary Care Unit)、ヘルスセンター (Health Center)、クラヌアン病院 (Kranuan Hospital) であった。この実習を通し、学生たちは健康の意味、多様性の意味、そしてまずは自国のことをもっとよく理解しなければならないこと、さらに、グローバルに考えることの意味について考えるきっかけとなったと思われる。

VII. 看護学部と看護学研究科の教育・研究・地域貢献活動

1. 領域別の教育活動と地域貢献活動

1) 専門基礎領域の活動

(1) 医学系教員の活動

<教育活動>

「心と体の理解」のための科目群である「機能形態学」「生物化学」「病理学」「病態学」「症候論」「臨床検査・画像診断」「健康環境論」など、看護の基礎となる病態の深い理解に力点を置いた講義を展開している。1年生から2年生にかけて、医療の基礎となる解剖学（正常生体構造）・生理学（正常機能）からはじまり、“病気”を症状別、疾患別に、表在理学変化から臓器病理まで多面的に、かつきめ細かく解説し“テーラーメイド医療”の一員としての自覚・自信を身につけることを目的とした授業を行っている。さらに、講義だけではなく、自らの手で科学的事象を再現し証明する実習（「基礎健康科学実習」）、ならびに、1・2年次に学んだ基礎医学系科目と基礎看護系科目の知識を統合する演習（「看護統合セミナーI」）を行っている。「基礎健康科学実習」では、人の健康状態を多面的に判断できる能力を実践的に身につけることと、人の健康に影響を与える身の回りの病因を知り対応できる能力を養うこと、また今後の看護実践に必要な科学的実証方法および思考方法を修得することを目標に実験実習の指導を行なっている。人体標本を用いた肉眼観察、組織標本を用いた顕微鏡観察、ラットの解剖と観察、血球細胞や染色体の標本作製と観察などの解剖学と、血液検査や心電図測定などの生理学・検査法、ラットのグリコーゲン抽出、pHの測定、可視吸光の原理などの理科・理化学的基礎、微生物の染色検査や手指の微生物の検出と抗微生物薬の効果判定などの微生物学、活性汚泥の分析など環境学に関する実験実習を行なっている。「看護統合セミナーI」では、臨床で得られる情報を看護者の視点から分析し看護実践に反映させる基礎能力を習得する目的で、実際の症例を用いて医学的側面から症例把握、鑑別診断のプロセスを実施し、看護アセスメントにつなげるよう工夫している。また今年度から「基礎セミナー」を領域として担当することになり、大学での学習活動における基礎力の養成を目指して、特に文章表現や要約の仕方、レポート作成方法に関する基礎教育を実施した。

<地域貢献活動>

古賀は県民の日に小鹿地域の住民に対して、健康フェアと健康相談会を短期大学部と共に毎年実施している。また、県立大学のCOC委員として、静岡市保健福祉課および駿河区の住民と共に健康フェスタを開催した。

高林、濱井、三崎は「JST女子中高生理系進路選択支援プログラム」に参画し、手指の常在菌の観察と手洗い効果の評価に関する体験実習を実施した。

濱井の地域貢献活動については保健学領域を参照のこと。

(2) 保健学系教員の活動

<教育活動>

学生が興味を持ちモチベーションが低下しないように、できる限り日常の問題に関連づけて解説することを心がけている。具体的には、出生率の低下による少子高齢化、生活保護受給者の増大、環境汚染、エボラ出血熱、ジカ熱感染による小頭症児出産、インフルエンザの流行、食中毒など社会問題となっている事象を取り上げて講義の導入としている。

国際保健では、国際保健医療協力や国際社会に関心をむけるインセンティブを明確に与えるために、国際保健医療の現場で実際に活動している専門家を招聘している。さらに、専門家に協力していただき、国際保健医療協力や国際社会に関心の高い学生を対象に、学生の興味や関心を中心としたテーマについて専門家とディスカッションすることにより、国際保健医療協力や世界の情勢についてより深い理解と関心を促進している。

<領域で行っている地域貢献活動>

西川は、沼津市開発審査会委員として、市街化調整区域内における、工場の増設・移転の可否について審査した。また、東伊豆町の健康づくり推進事業である、「東伊豆町えがお食育推進計画」の策定について助言するとともに、基礎データとなる「食に関する実態調査」の集計について指揮するとともに、サポートした。

濱井は、全国医療通訳者協会主催の2017年全国大会、医療通訳研究会(MEDINT)主催のシンポジウム2017、浜松中ロータリークラブにて講演し、医療通訳者の活動を支援している。また、静岡県主催の医療通訳者養成講座など静岡県ならびに静岡県国際交流協会と協力して医療通訳体制づくりに取り組んでいる。今年度は医療通訳拠点病院への医療通訳に関する情報を提供している。

2) 基礎看護学領域の活動

<教育活動>

基礎看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

基礎看護学領域が主に行う講義及び演習科目としては、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅲ、看護理論、看護過程、ヘルスアセスメント、看護統合セミナー、看護教育論、看護管理論、国際看護論等であった。今年度も領域教員の退職及び着任に伴って担当教員の入替が生じた。これに伴い講義内容と展開の検討・改善を行った。1学年120名の学生を指導するにあたり、演習はきめ細やかな指導が行えるように2回転で実施し、e-learningを活用する等、学生にとっての教育効果が向上するよう工夫をこらした。

② 実習について

基礎看護学領域における実習は、「ケア場面実習(1単位)」、「看護アセスメント実習(2単位)」、看護管理を主体とした「発展看護実習Ⅰ(1単位)、発展看護実習Ⅱ(1単位)」であった。1年次のケア場面実習は2施設(静岡赤十字病院・静岡市立静岡病院)で実施した。入院生活を送っている人々の療養環境を知り、看護の役割につい

て理解を深めることを目的に、療養環境の観察や看護ケア場面に参加した。今年度から週 1 回の隔週実習に方法を変更した。学生は臨地で体験したことを学内での学習と照らし合わせ振り返ることができ、次回の実習課題を見出すことにつながっていた。

次に、2年次の看護アセスメント実習では2施設（静岡県立総合病院・静岡赤十字病院）で実施した。主な実習内容は、前半は一人の患者を担当し、患者背景や病態理解、必要な看護実践行為といった一連の流れについて看護過程を展開することによって学習した。後半は、看護師とともに患者に行われた看護がどの看護診断、看護成果および看護介入実施計画に基づいていたかを学習することで、看護過程を総合的に学習することができた。

4年次の統合分野に位置づけられる発展看護実習では、病院が企画するインターンシップと病院見学を活用して、看護管理論（発展看護実習Ⅰ）ならびに看護教育論（発展看護実習Ⅱ）を主軸とし、学生はそれぞれ3か所延べ6か所の病院で実習を行った。卒業直前に、今までの実習では体験できなかった看護マネジメントと継続教育の実際を知ることができ、より学生自身の看護的課題を深く理解することができた。

大学院看護学研究科

基礎看護学領域では看護技術学分野と看護管理学分野を担当し、両分野の専門性と大学院教育に資する指導内容及び支援体制を強化整備した。今年度は看護技術学分野に4名の院生が入学し、研究計画書の作成に取り組んだ。さらに、他の分野に在籍する院生の研究計画書の審査や学位審査ならびに最終試験等に携わった。

<領域で行っている地域貢献活動>

基礎看護学領域

渡邊は、磐田市立総合病院において看護研究支援を継続的に行っている。認定特定非営利活動法人愛知排泄ケア研究会の理事および排泄機能指導士講習会の講師として、看護職以外に対しても広く排泄ケアの啓発活動を設立初期から携わっている。また、国立大学法人浜松医科大学医学系研究科看護学専攻修士課程において、委託任用を受け「看護教育論」を継続的に教授した。さらに、日本看護技術学会副理事長・査読委員、日本看護学教育学会評議委員・査読委員、日本看護研究学会監事・査読委員、日本看護医療学会理事・査読委員、日本老年泌尿器学会評議員として活動した。また、静岡県看護協会で開催した平成29年度静岡専任教員講習会講師として「看護研究／量的研究」を担当した。

荒井は、前職において日本のナースプラクティショナー養成教育に創成期より携わっている。平成27年10月に厚労省が看護師の特定行為研修制度を定めたことを受け、指定研修機関である国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健医療学専攻特定行為看護師養成分野の特定行為研修管理委員会委員として引き続き委嘱され、外部委員としてカリキュラム認定や教育評価等について活動した。また、静岡済生会総合病院の地域医療支援病院運営委員会委員として活動した。

操は、平成29年度は以下の地域貢献活動を行った。

平成29年度高大連携出張講義として、清水桜が丘高校での講義を担当した。

国立大学法人東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科、神奈川県立保健福祉大学大学院看護学研究科から委任を受け、看護学研究法特論、がん看護学演習Ⅰの講義を担当した。また、神奈川県立保健福祉大学看護教育実践センターの感染管理認定教育課程での疫学ならびに文献の批判的吟味に関する講義、東北労災病院での看護診断に関する研修、東京都看護協会での質的研究に関する研修の講師を担当した。医療法人徳洲会湘南厚木病院、独立行政法人地域医療機能推進機構桜が丘病院において感染管理プログラムのコンサルテーションを引き受けた。

日本看護科学学会和文誌専任査読委員、日本環境感染学会教育委員会副委員長・編集委員・評議員、日本医療安全学会査読委員、*American Journal of Infection Control* (AJIC) 査読委員を委嘱され、活動した。

菅原は、静岡市立清水看護専門学校の教育課程編成会議委員として委嘱を受け、年2回の会議に参加し、教育課程に関する意見交換を行った。さらに、平成29年度高大連携出張講義として、静岡県立御殿場南高等学校にて講義を行った。

3) 成人・老年看護学領域の活動

<教育活動>

成人看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

成人看護学領域の授業では、ライフサイクルのうえで最も長期間を占める成人期におこる病気、健康障害を持つ人々と家族について、身体的・心理的・社会的な側面の統合された存在としてそれらの人々を捉え、その特徴を理解し、急性期、慢性期あるいは回復期のすべてを通して、健康の維持、予防、回復、治癒、適応、QOLの向上をめざした科学的根拠に基づく看護を実践できる力を養うことを目標としている。この目標に変更はないため、授業内容も変更していない。

② 実習について

「成人看護学実習Ⅰ」、「成人看護学実習Ⅱ」、「成人看護学実習Ⅲ」の3つ実習を行った。各実習の1クールは2週間とした。

「成人看護学実習Ⅰ」と「成人看護学実習Ⅱ」では、履修学年となる3年生が昨年度より120名体制となった。そのため昨年度より実習施設数を拡大し、静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡てんかん・神経医療センターの5ヶ所に行っている。今年度においても、これら5施設を実習施設とし、それぞれの施設の看護部および実習部署と密に連携を行いながら病棟実習を進めた。「成人看護学実習Ⅱ」では、加えて手術室・HCU・ICUでの見学実習を行った。

「成人看護学実習Ⅲ」は1グループを2チームに分け、チーム別に、①受け持ち患者に対するEBPに基づく看護過程の展開と、②臨床判断能力の育成を目的に高機能シミュレータを用いたシミュレーションの2つの内容を行う実習である。①については静岡赤十字病院で、②については学内で実施した。履修学年となる4年生は114名であった。

老年看護学領域

① 授業の特徴と昨年度より変更した点

老年看護学領域では、老年期にある対象の生活および老化に伴う身体的・心理的・社会的特性を理解し、老年看護の基本的な理念と援助、今後の保健・医療・福祉における施策の方向と看護の役割について考えることができることを目標としている。科目は「対象の理解Ⅱ」、「老年看護学」、「老年看護学演習」、「老年看護学実習Ⅰ」「老年看護学実習Ⅱ」で構成されており、各教科目を通して、個々の高齢者の価値観を尊重する態度を養うとともに、高齢者に生じやすい健康問題への看護援助、家族への支援等から、その人らしい生活の質（Quality of Life）の確保と向上に資するような援助技術の修得について教授している。

今年度も昨年度に引き続き、「老年看護学演習」は2クラス制で実施した。また、老年看護学実習Ⅱにおける短期間での看護過程の展開の必要性から、今年度より「高齢者の特徴を踏まえた看護過程」を授業に取り入れた。

② 実習について

老年看護学実習Ⅰ（1単位）は、2年次（H26カリキュラム）112名が履修した。介護老人保健施設の入所、通所部門にて実習を行い、高齢者の介護予防をめざした支援のあり方について学修した。実習施設は、介護老人保健施設5施設（エスコートタウン静清、ケアセンター池田の街、ケアセンター瀬名、こみに、星のしずく）にて実施した。学生人数の増加に伴い昨年度から実習時期を4週間に拡大し、実習グループ16Gを3クールに配置し、最終の1クールをインフルエンザ罹患などによる影響も考慮し追実習のための予備週とした。各部門の職員各位にご指導頂き、多職種間の連携と看護職の役割について考察を深めることができた。

老年看護学実習Ⅱ（2単位）は、3年次（H26カリキュラム）122名が履修した。昨年度より実習方法を変更し、療養型医療施設実習6日間・回復期リハビリテーション病棟実習2日間にて実施した。これに伴い、実習施設も増え、療養型医療施設実習は3施設（小鹿病院、静岡瀬名病院、山の上病院）、回復期リハビリテーション病棟実習は5施設（静岡リハビリテーション病院、甲賀病院、静岡リウマチ整形外科リハビリ病院、静岡リハビリテーション病院、山の上病院）にて実施した。特に、学生の学びにおいては、療養型医療施設ならびに回復期リハビリテーション病棟における多職種の連携のあり方から、看護職の役割について考察を深めることができた。

成人・老人看護学分野(研究科)

成人・老人看護学分野は、慢性看護学、急性看護学、がん看護学の3看護学を包括し、本分野の学問的多様性と院生の研究ニーズに対応できる指導・支援体制を取っている。各看護学においては、独自の看護現象を捉え、そこでの課題や問いを明確にし、既存の研究手法の適用、さらには新たな方法論の開発にも挑戦しつつ、対象の理解と実践を支える新しい知見の発見とその構築に取り組んでいる。研究科の学生は、この過程をそれぞれの特論(各看護学での研究に必要な基本的理論の理解)、演習(各現象への基本的理論の適用と評価)、応用実習(基本的理論の実践での個別適用とその長所と限界の検討)を通して学びつつ、修士学位論文としてまとめる。

今年度、本分野には、修士課程1年1名、2年1名の計2名の院生が在籍した。2年1名は学位論文審査に合格し修了した。1年1名は、1年次のコースワークを

終了し、学位論文研究計画書の審査に合格した。

<領域で行っている地域貢献活動>

成人看護学領域

青木和恵

2018年9月27日・28日に静岡県看護協会が担当して開催する第49回日本看護学会学術集会「慢性期看護」（静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ）について学術集会運営委員会の委員、および抄録選考委員会の委員長を務めた。また静岡県内の大学、教育機関などの非常勤講師として、静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程、常葉大学健康科学部看護学科、岩手県立大学大学院看護学研究科、聖隷三方原病院ファーストレベルにおいて講義を担当した。また静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程では教員会委員を務めた。学会関連では、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会の理事および広報委員、編集委員、日本がん看護学会の査読委員、日本創傷・オストミー・失禁管理学会の理事および査読委員として活動した。

山田紋子

静岡県立総合病院の臨床研究倫理委員会および看護部臨床研究倫理委員会の外部委員、日本看護診断学会の専任査読委員として活動した。また、東海大学救急看護認定看護師教育課程の非常勤講師を務めた。さらに、3ヶ所の総合病院において看護診断に関する講義を、静岡県看護協会主催の平成29年度専任教員養成講習会において研究法(質的研究)に関する講義を行った。学内の高大連携事業において富士市立高等学校での出張講義を行った。

田中範佳

Honor Society of Nursing の学会査読委員、Virginia Henderson Global Nursing e-Repository の査読委員、静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程教員会の教員会委員として活動した。学内の高大連携事業において星陵高等学校、三島南高校で出張講義を行った。

鈴木琴江

日本看護学教育学会の評議員として活動した。また、日本看護学教育学会第27回学術集会査読委員として4件の査読審査を行った。さらに、学内の高大連携事業において富士高等学校での出張講義を行った。

糸川紅子

静岡県立静岡がんセンター入試委員会委員、静岡県対がん協会主宰の研修会における講師を務め、がんサバイバーを対象とする教育やピアサポーター養成研修に従事した。

前野真由美

静岡県多文化共生審議会の委員として、「ふじのくに多文化共生推進基本計画」に関して意見を述べた。外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会事務局長として、「第20回外国人のための無料健康相談と検診会」11月19日静岡済生会総合病院の開催に携わった。学内の高大連携事業において、清水南高等学校での出張講義を行った。

影山葉子

日本家族看護学会第 24 回学術集会の一般演題の査読、日本看護医療学会雑誌の論文査読を行った。また、哲学・現象学・質的研究に関心のある、主に県内の医療・福祉関係者をメンバーとした「身体論研究会」を取りまとめている。

飯塚真樹

高大連携出張講義にて静岡学園高校を担当し、出張講義を行った。

石切山千恵

高大連携出張講義にて浜松湖南高等学校を担当し、出張講義を行った。

老年看護学領域

発展看護実習(老年看護学領域)にて、健康文化交流館『来・て・こ』および静岡県立大学「ふじのくに」みらい教育センター(COC)と共催し、地域住民向けの健康教育(脱水予防、脳トレ体操など)を実施した。

安田は静岡県看護協会の学術研究推進委員会の委員および看護研究倫理審査委員会の委員、第 6 回静岡県看護学会の査読を担当した。

石川は、社会福祉法人駿府葵会 特別養護老人ホーム蜂ヶ谷園・久能の里の第 3 者委員を担当した。

4) 小児看護学領域の活動

<教育活動>

① 小児看護学・小児看護学演習

テキスト医学書院「小児臨床看護学論」及びメディカ出版「ナーシング・グラフィカ小児看護」シリーズを軸とし、心雑音などの音声、動画、DVD 等を教材とした講義を展開した。講義の開始時あるいは終了時に、小テスト（国家試験様式）を実施し、講義内容との関連を具体化させ、学習意欲の向上を図った。講義終了後、60%以上の正解で及第と設定した筆記テストを実施した。結果は全員合格であった。

小児看護は対象が子どもであり特有な技術とアプローチの工夫が肝要であるが、近年の学生は子どもと直接接する機会が非常に少ない傾向にある。その対策として、実際のお子さん（幼児期）数名を演習に招き、そのお子さんたちにバイタルサインや身体測定を実施させていただく体験型学習を実施した。また高機能シミュレーション人形を用い、小児における不整脈の心拍のリズム不整、肺雑音などの聴診の演習を行い、健康な小児との観察点の比較を学ばせた。そのほか小児看護で広く実践されている患者さんや家族に対するプレパレーションの学習として、検査・手術を受ける患者さんを想定し、グループごとにツールを作成させ、発表の機会を設けた。看護過程は、ペーパーペーシェント 2 事例のうち 1 事例について各自展開し、グループごとの発表をもってケアプランの見直しおよび向上について学習した。

② 小児看護学実習

実習の目的は成長発達過程にある子どもを理解すること、発達・健康障害の

ある子どもとその家族のセルフケアを支える看護実践能力を養うことである。静岡県立こども病院および藤枝市立総合病院小児科での実習を行った。県立こども病院では、乳児内科病棟、感染管理病棟、幼児・学童内科病棟、外科病棟、循環器病棟の5病棟にて、学生受け持ち患者数1名～2名での実習を計8クール行った。2週/1クールにて、10～18名の学生を各病棟3～4名の配置とした。藤枝市立総合病院小児科では、6名のグループが病棟・外来・NICUで計2クール実習した。実習1週目に関連図の作成・看護計画の立案をし、2週目に立案した看護計画の実施・評価を行った。病棟での実習のほか、受け持ち患者の状況に応じ手術室・PICU病棟、臨床検査室、リハビリ室、外来での見学実習も随時行っている。

<領域で行っている地域貢献活動>

①難病のこどもの支援ネットワーク・全国各地でのサマーキャンプ「がんばれ共和国」

特定非営利活動法人難病のこども支援全国ネットワークは、全国の難病の子どもとその家族の支援を目的として、全国各地でのサマーキャンプ、相談事業、保護者の連絡会、後援会や研修会、広報活動、啓発人形劇、健やか親子21推進議会への参加などを活動の中心としている団体である。この中部地区ネットワークの主たる活動はサマーキャンプで、静岡県立こども病院の協力の下、医師、看護師、チャイルドライフスペシャリスト、理学療法士、保育士などがボランティアとして多数参加している。小児看護学の教員は、学生数名と共に参加し、日常生活の世話、入浴、一部の医療的ケア、ボランティア統括などを担った。

②リレー・フォー・ライフジャパン静岡—がんに負けない社会をめざす、がん啓発サポートキャンペーン—

がん患者やその家族、支援者らが公園、グラウンドを24時間リレーしながら歩き通すことでがん患者やその家族が交流を深め、共通認識を確かめ合うためのイベント。静岡では本学芝生園地で本学共催として毎年秋に開催され、教員は、がん撲滅のため学生と共に企画から関わり継続参加している。

③静岡県内の特別支援学校に勤務する看護師の研修の企画と開催

当領域では、静岡県教育委員会学校教育課特別支援教育室から依頼を受け、3月（継続看護師対象）、4月（新任看護師対象）、年2回にわたる看護師研修の企画・開催を行った。

④心臓病のこどもを守る会静岡支部—親睦会親子キャンプへの参加—

一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会は、医療制度の改善と社会保障及び教育制度の充実等、心臓病児者とその家族の幸せのために活動することを目的とし1963年に設立された。静岡支部では、専門医による講演会、学習会を定期的で開催しており、医師・看護師が参加した療育キャンプ・クリスマス会を実施運営している。小児看護学領域では、毎年5月に開催される領域キャンプにボランティアとして参加し、心臓病の子どもとその保護者、きょうだい、医療従事者が様々な役割を担ってバーベキュー、相談会、レクリエーションなどを企画している。今年度も県立こども病院の院長、循環器科の医師らとともに、医療従事者として参加した。

5) 母性看護学・助産学領域の活動

<教育活動>

母性看護学

母性看護学領域では、性と生殖の側面から人間の健康課題を査定し、健康の維持増進、疾病予防に向けた健康教育、看護支援の考え方、方法について教授している。担当講義科目は、対象の理解Ⅲ、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学演習、母性看護学実習である。

母性看護学は、授業で基礎知識を学び、演習で思考過程および基礎的な技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。4名の担当教員は、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、母乳育児支援について、同一事例を用いながらオムニバス形式で授業を展開し、健康教育と看護過程を中心に、グループおよび個人による課題学習と、その発表・意見交換で学習内容を深めた。実習は、2週/1クール5~6人の学生が実習を行った。実習施設は、学生数倍増に伴い21グループとなったため、昨年度に引き続き静岡市立静岡病院、静岡赤十字病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、藤枝市立総合病院、焼津市立総合病院の6か所であった。実習内容は、2週間に1組以上の母子を受け持ち、看護過程を展開することを基本とし、受け持ち母子がいない場合には、産褥期の集団健康教育や産婦人科外来の実習を行った。昨年同様、実習最終日のまとめの会では、実習での学びを文献検討で考察した結果を発表し、各自の学びを深めるとともにお互いの体験を共有した。

発展看護実習Ⅰ・Ⅱでは、4年生24名が母性看護学領域で実習を行った。前年度より受け入れ学生数が12名増加したため、富士市内の助産所1か所と静岡市内のNPO法人1か所を新規実習施設として登録し、出産を取り扱う助産所2か所、母乳育児支援を行う助産所3か所、子育て支援を行っているNPO法人2か所、NICU1か所の計8か所で実習を行った。同実習は助産学分野の実習と時期が重複することから、教員4名が各6名の学生を担当した。学生は、個々に実習計画を立案して主体的に実習に取り組み、11月には発表会を開催し、それぞれの学びを共有できた。卒業研究は、太田・中川・藤田・石川(紀)・永谷・福島が各3名、山田(貴)・鈴木(恵)・高木が各2名の計24名の学生を担当し、合同ゼミと教員個々のゼミを組み合わせたゼミ形式で研究指導を実施して、12月の卒業研究発表会にて全員が発表を行った。

助産学

修士課程2年生は4名が在籍していたが、1名は前期・後期休学、1名は後期休学、もう1名は12月に退学した。1年生は6名が在籍した。

修士課程1年生の科目は、講義科目で基礎知識を学び、演習で思考過程および技術の習得を行い、実習でそれらの統合を行うという流れで組み立てている。特色ある講義科目としては、PBL方式による講義を展開している助産学演習B・Ⅲ・B・Ⅳである。今年度から新たに、妊娠期と分娩期のシミュレーションを取り入れ、臨床場面に近い状況を設定して演習を行った。また、助産学特論A・Ⅱと助産学演習A・Ⅱでは、臨床での妊婦健康診査実習に向けて学内で必要な知識習得のための講義と演習を行い、臨床実習後は、担当した妊婦のケースカンファレンスを組み合わせて知識と技術の習得に結び付けている。その他の講義内容としては、管理栄養士による栄養学の講義

から知識の習得、新生児蘇生法(NCPR)の講習を受講し認定を取得、フリースタイル分娩の演習、模型を用いた会陰縫合術の実施、鍼灸の講義受講と体験学習、アロマセラピーの体験学習、母乳育児支援の講義・演習および開業助産師による講演など、助産師に必要な不可欠、且つ、より豊富な知識が習得できるように内容の充実に努めている。さらに今年度から、「妊産婦の冷えと助産ケア」の講義、開業助産師&鍼灸師を講師に迎えた指圧・灸の演習を追加した。また、リプロヘルスサポーター認定に向けての講習を受講し、避妊具の市場調査報告、また性教育の授業案の作成などリプロダクティブヘルスに関する課題にも力を入れている。今年度は、本学看護学部1年生を対象に、「選択・決定できる自分になろう!!」と題して、授業内容を踏まえた性教育を実際に行った。助産学概論では、聖路加マタニティケアホームでの臨床講義を継続し、エビデンスに基づくケアの展開方法について学んだ。修士論文のゼミは通年で行い、Evidenced-based Midwiferyのステップに基づく演習、修士論文のための文献検討、研究課題の明確化、計画書の作成に関する指導をゼミ形式で実施した。

助産学実習は、6名が履修し、静岡県立総合病院、静岡赤十字病院、静岡済生会総合病院の3か所で行った。学生は、妊婦健康診査実習で、妊娠初期から末期までの妊婦に関わり、妊婦の健康審査や保健指導を行った。また、実際の分娩介助では、妊娠中期からの継続事例2例を含め、1名が11例、3名が10例、1名が9例、1名が8例行い、6名全員単位認定された。助産学応用実習B-IIでは、地域の開業助産所である、エス・アールハウスに1名、おしか助産院に2名、くさの助産院に1名、渡邊助産院に2名が2週間の実習を行い、地域で活躍する助産師の理念やケアについて学びを深めた。昨今の対象妊産婦や新生児のハイリスク化も踏まえ、静岡県立こども病院、聖隷浜松病院、静岡済生会総合病院のNICUにおいて1週間実習を行った。さらに、今後の大学院生の増加を見込んで実習施設を増やすための交渉を続け、新たに焼津市立総合病院を助産学実習の施設として確保した。修士課程2年生は、助産学応用実習Aを履修し、自らの研究課題について探求するとともに、助産所での分娩介助1例以上を実施し、より質の高い助産ケアを修得できた。本年度は、2名が履修し、渡邊助産院で1名、おしか助産院で1名が実習を行った。

修士論文指導は、太田が指導教員として2名、中川が副指導教員として1名を担当した。1名が、修士論文審査と最終試験を受けて合格し、看護学修士の学位を修得できた。さらに、助産師国家試験受験資格を得て、1名が、2月の助産師国家試験を受験した。

現在、本学における今後の助産師養成の在り方を検討するために、ワーキンググループを編成して、教育目標、科目編成や実習配置、教育内容について検討を重ねている。平成31年度のカリキュラム改正を目指して、5月の文部科学省の申請に向け、準備をしている最中である。また、大学院助産学分野への受験生を増加させる目的で、本学看護学部生を対象に、助産について語る会(MJ café)を3回開催した。参加者は延べ42名であり、参加後のアンケートからも、助産師や大学院進学への関心が高まった結果が得られた。

<領域で行っている地域貢献活動>

領域としては、昨年度同様、はじめて育児をする母親を支援するために、地域の母親の自助グループ「NPO法人バディプロジェクト」と共催し、「ひよこママのサプリ講座(4回)」を企画運営し、小鹿キャンパス新看護学部棟実習室3、5で開催した。

また、昨年に引き続き、助産師免許を取得している本学の学部卒業生と大学院修了生を会員とした「静岡県立大学看護同窓会助産支部会」、第4回を開催し、太田の講演、および総会・交流会を行った。

太田は、全国助産師教育協議会の教育検討委員として、大学院での助産師教育モデル・コアカリキュラムの検討に参画し、会員校を対象とした説明会の準備・運営に携わった。また、東京でペリネイタル・ロスのサポートグループ「天使の保護者ルカの会」を開催している。看護師向けには、静岡と北九州で、ペリネイタル・ロス看護師研修プログラムを主催するとともに、日本家族計画協会主催の北海道地区母子保健事業研修会と聖隷浜松病院周産期勉強会において、ペリネイタル・ロスの講演を行った。また、静岡県看護協会主催のクリニカルラダーレベルⅢステップ研修において、「周産期領域での倫理的課題」の内容で講師を務めた。

藤田は、静岡市男女共同参画審議員として、第3次静岡市男女共同参画行動計画において、防災や男女間の暴力の根絶、ワークライフバランス、子育て支援を中心に取り組んだ。また、日本助産学会の助産政策委員として、平成30年度の診療報酬点数改訂に向け、保険医療機関での助産師の専門性を生かすべく内容について検討し、要望書の作成及び提出等に関わった。さらに、日本フォレンジック看護学会の理事として、性暴力被害者対応プログラムの作成検討を行い、本年は日本赤十字社医療センターにおいて研修会を実施した。

石川は、日本助産評価機構の理事として助産実践評価部の活動である認証評価、宮城県と埼玉県の2つの助産所評価に携わった。また今年には日本助産師会創立90周年にあたり、日本助産師学会において「The Eve of the Revolution～2027年100周年へ」のワークショップの中で「女性と助産師のパラダイムシフト 10年後の助産へ」のテーマで講演を行った。平成29年度厚生労働特別研究事業「無痛分娩の実態把握及び安全管理体制の構築についての研究」（研究代表者：海野信也）では、日本看護協会の立場から研究協力員として参加し、無痛分娩に関する看護ケアに習熟した助産師・看護師の研修・指導体制を提案した。第43回全国助産師教育協議会全国研修会では、特別セッションのパネリストとして「助産師教育における硬膜外麻酔分娩を考える」で講演を行った。

永谷は、小鹿キャンパス健康支援センターと看護学部が協力して行う事業である女性健康相談室を毎月1回実施した。また、焼津市介護認定審査会委員を担当している。福島は、浜松市の産科有床クリニックの協力を得て、多施設参加型防災訓練を実施した。また富士市健康づくり推進協議会委員として、富士市内のがん検診受診率向上事業の見直しにかかわった。鈴木は、磐田地区助産師会の母子災害対策について取り組み、2月17日助産所施設での防災訓練を実施した。高木は、COC事業の人口減少ワーキンググループに参加し、静岡市の人口減少問題について他学部の教員と討議、研究を行なった。また、静岡市助産師会に所属し、事業の広報パネル作成を担当した。

6) 精神看護学領域の活動

<教育活動>

精神看護領域では、人間関係論、生涯発達心理入門、対象の理解Ⅳ、病態学Ⅳ、

精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、臨床心理学を担当している。また他の領域と共同で行う授業では、最新看護の動向、発展看護学実習、災害看護演習を担当した。

講義では体験学習や少人数学習方式を積極的に取り入れ、学生が主体的に考え、互いの語り合いの中から新たな学びを広げられるよう、全体の授業構成を工夫している。具体的には、精神科病院での見学実習と実施後の学内での学びの発表、看護学部棟実習室でのリラクゼーション法の演習、IBL (Inquiry Based Learning) を用いたグループ学習、ペーパーペイシエントを用いた看護過程の展開やプロセスレコードの作成等を行っている。また今年度から行う取り組みとして、教員の入れ替えに伴う精神科訪問看護の視点の強化等、地域を踏まえた特徴を出せるような講義を組み立てている途上である。

さらに、授業から実習への効果的な移行を意図して、外部講師を招聘し臨床現場の実際（精神科訪問看護、司法精神看護等）についての講義をしていただいている。現場のリアルな状況について看護職から直接お話を聞けることは、適度な緊張感とともに学生の学習意欲や問題意識を高め、実習へのモチベーションを高める効果をもたらしている。

なお昨年度より、これまで2週間の全てを精神科医療施設(病院)で行っていた精神看護学実習を、1週目は病院内、2週目は地域の社会復帰施設(作業所等)で実習する形態へと変更した。それにより、退院後の精神障がい者の生活の実態、社会復帰へ向けた課題、入院時から退院後の生活を視野に入れた精神看護援助の必要性等、精神障がい者に対する学生達の理解と学びの幅が広がった。今年度は引き続いてその取り組みを踏襲したほか、実習施設先から当事者を招いて障害の体験談を学生に語ってもらう取り組みを始めた。発展看護実習、災害看護演習、卒業研究では、各学生が自分の実習テーマ、研究テーマをもち、担当教員や臨床の協力を得て目標達成へつなげる取り組みを展開している。

さらに大学院では精神看護学特論Ⅰ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学応用実習Ⅰ、家族看護論（共同）、社会人間行動論（共同）を担当したほか、研究計画書の作成を行った。

<領域で行っている地域貢献活動>

篁は、静岡市の自殺対策推進協議会の会長、認知症対策推進協議会の会長、NPO 法人風の会の理事、日本学校メンタルヘルス学会の理事、評議員の役割を担った。

長澤は、静岡県看護協会の静岡県専任教員養成講習会運営委員と看護教員養成に関する領域別看護論演習（精神看護学）を担当した。

村方は全国訪問看護事業協会の研修会の講師等を行った。

近藤は静岡県看護協会の看護教員養成に関する領域別看護論演習（精神看護学）を担当した。

篁、長澤は一般市民を対象とした静岡県立大学公開講座「こころと体の健康について改めて考える」を各1回担当した。

7) 公衆衛生看護学領域の活動

<教育活動>

学部教育における講義では、公衆衛生看護学の定義や理念に基づき、非常勤講師やゲストスピーカーをお招きし、学生が地域で生活している住民や保健師活動を具体的に理解できるよう配慮した。3年生の公衆衛生看護活動論Ⅱの授業では、地区診断の講義後に母子と高齢者の2事例を活用して地区診断の手法を学ばせ、9月から開始された公衆衛生看護学実習Ⅰにつなげた。4年生の演習では、保健師資格取得希望者全員に乳児の家庭訪問に必要な技術の基本について学習させた。また、事前学習ノートにより個人・グループでの自己学習を通し、公衆衛生看護学実習Ⅱにつなげた。

4年生の公衆衛生看護学実習Ⅱは、26カリの初めての实習として、5月～7月に行政、産業、学校に別れて2週間の実習を行った。行政における実習では、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター、富士宮市保健センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター(2グループ)、島田市保健福祉センター、吉田町保健センター、牧之原市保健センター、静岡市北部保健福祉センター、同藁科保健福祉センター、同長田保健福祉センター、同大里保健福祉センター、同清水保健福祉センター、同蒲原保健福祉センターであった。主な実習内容は、乳幼児健康診査や健康相談等各種事業に参加し、地域住民のニーズに応じてどのように保健事業が行われているかを、3年生後期で学んだ公衆衛生看護学実習Ⅰにおける地区診断の取り組みを可能な限り意識させながら学習させた。さらに、各学生が家庭訪問に同行し、行政保健師が行う家庭訪問の実際について学んだ。

産業における実習では、36人の学生が三菱電機(株)静岡製作所、JR東海、ジャトコ(株)、日立ジョンソンコントロールズ空調(株)で各2グループずつ実習した。主な実習内容は、健康診断、健康相談、職場巡視等の参加や健康教育等の実施を通し、産業保健の5管理、産業看護職の役割や多職種との連携について学んだ。

学校における実習では、12人の学生が4グループに分かれ、静岡市立賤機中学校、同竜南小学校、同中田小学校、同安西小学校、静岡県立静岡北特別支援学校、同静岡南部特別支援学校、同中央特別支援学校、同清水特別支援学校、同吉原林間学園で実習を行った。主な実習内容は、保健室活動、学級活動の参観、校内巡視、保健掲示物の作成等を通し、学校看護活動の実際や養護教諭の役割について学んだ。

今年度から開始された国際保健・看護演習及び実習は2人の学生が履修した。実習では8月21日～9月1日にタイのコンケンに出向き、コンケン大学を中心として、シーナカリン病院やプライマリヘルスセンターの見学、家庭訪問の同行、ケースカンファレンスの参加などを行った。演習・実習を通して多様な地域環境に暮らす人々の健康を守るための取り組みをグローバルな視点で学んだ。

3年生の公衆衛生看護学実習Ⅰでは、2週間/1クールで、132人の学生が実習を行った。実習施設は、静岡県富士健康福祉センター、富士市保健センター(3グループ)、富士宮市保健センター、静岡市保健所、静岡市東部保健福祉センター、同長田保健福祉センター、同南部保健福祉センター、同清水保健福祉センター、同蒲原保健福祉センター、静岡県中部健康福祉センター、焼津市保健センター、牧之原市保健センター、吉田町保健センター、島田市保健福祉センターであった。主な実習内容は、担当地域(主に小学校区)を選定し、地図の作成、統計資料の読み取り、地区踏査、住民や専

門職からの聞き取り、地域保健活動の参加などを通し、地区診断を行った。

<領域で行っている地域貢献活動>

静岡市新任期保健師研修に協力し、新任期1～3年目の保健師を対象に、地区活動に関する講義を6月に行った(佐藤・深江)。9月と12月には、1年目保健師と2年目保健師の各新任保健師が実際に地区診断を行うプロセスを支援した(佐藤・岩本・望月・安藤・深江)。3月9日には、地区活動の発表会に参加し、各保健師の地区診断の取り組み状況をふまえ、次年度にどのように繋げていくかといった観点で各教員が講評を行った(佐藤・岩本・望月・安藤・杉山・深江)。

静岡県健康医療局健康増進課からの依頼で、県健康福祉センターと県内市町の新任期保健師を対象とする新任期地域保健従事者研修会(8月)に講師として協力した。(杉山)

富士市の保健師全員を対象とした富士市地区活動研修の協力を行った。5月、8月、11月と3回の研修で、家庭訪問を通しての地区活動についての講義及び研修企画の支援を行った(杉山・深江)。

静岡市子ども家庭課からの依頼により、養育支援訪問員連絡調整会議(9月)の事例検討会アドバイザーとして助言を行った(杉山)。

富士宮市の保健師全員を対象とした富士宮市地区活動の研修(11月)講師として協力した(深江)。

富士健康福祉センター及び賀茂健康福祉センターからの依頼で、平成29年度管内保健従事者新任期研修や地域保健・医療・福祉活動研究会の発表内容に関する助言・講評を行った(深江、杉山、佐藤)。

8) 在宅看護学領域の活動

<教育活動>

疾病や障害をもちながら生活する人々とその家族を理解し、人々の生活の質向上に貢献する看護を展開するための必要な基礎的知識と看護技術を修得することを教育活動の目的としている。科目編成は、「在宅看護学」、「在宅看護学演習」、「在宅看護学実習」である。

「在宅看護学」は、在宅看護の展開に必要な知識・判断・看護技術・療養環境の整備等について、学生自らが主体的に学ぶ姿勢を養う教育手法としてPBL、ケースメソッドを活用している。看護学研究科においては、共通科目選択「在宅看護論」「家族看護論」を開講している。

「在宅看護学演習」は、医療介護総合確保推進法の成立を受け、在宅医療・地域包括ケアシステムの推進が明確に打ち出された社会の要請に対応したゲストスピーカーによる活動事例の紹介と、フィールドワークで構成されている。フィールドワークは、静岡市内11圏域の地域包括支援センターを拠点とし、地域特性に応じた住民主体の活動への参加及び多職種への聞き取りを行う内容とした。

「在宅看護学実習」は、静岡市内11カ所の訪問看護ステーションにおいて学生が訪問看護師と療養者宅に同行訪問し、対象者の生活上の課題解決に向けた看護支援を行う訪問看護実習と在宅療養を支える関連施設実習(地域リハビリテーション

推進センター、重症心身障害児・者施設)で構成されている。本年度より訪問看護実習の一部として、医療機関における在宅復帰を予定する患者を中心とした多職種連携を学ぶ実習を1日行った。授業、演習で学んだ在宅看護、多職種連携に関する内容を、事例をもとに再確認し、在宅医療福祉のイメージの定着化を図った。また、それにより実習の中で学生自身が体験し直すことで授業・演習と実習の連動性を学生自身にも意識させる内容とした。

<領域で行っている地域貢献活動>

富安眞理

- 1) 社会保険桜ヶ丘総合病院 院内看護研究の講師として、第35回看護研究発表会(平成30年2月)において講評を行った。
- 2) 静岡市 在宅医療・介護連携協議会委員として、実施計画の検討を目的とした会議に参加した。
- 3) 平成29年度 地(知)の拠点事業として、平成28年2月17日に開催された清水区高部・飯田庵原圏域の専門職を対象とした「退院支援・多職種連携」研修会の企画・運営を担当した。
- 4) 平成30年12月8,9日に開催する第8回日本在宅看護学会学術集会の大会長として、企画運営を担当した(平成29年12月～)。
- 5) 平成29年度第1回清水介護保険事業所連絡会合同研究会(平成29年9月)において、チームSTEPPSの講義を担当し、また企画・運営を担当した。

今福恵子

- 1) 社会保険桜ヶ丘総合病院 院内看護研究の講師として、看護研究への助言及び第35回看護研究発表会(平成30年2月)において講評を行った。
- 2) 静岡県訪問看護ステーション協議会 新卒訪問看護師育成委員会の委員として新卒訪問看護師の育成目的の会議に参加した。
- 3) 静岡県災害福祉広域支援ネットワーク・作業部会アドバイザーとして助言を行った。

酒井知子

- 1) 平成30年度 地(知)の拠点事業として、平成30年2月17日に開催された葵区長尾川、清水区有度圏域の専門職を対象とした「退院支援・多職種連携」研修会の運営を担当した。
- 2) 社会保険桜ヶ丘総合病院 院内看護研究の講師として、看護研究への助言及び第35回看護研究発表会(平成30年2月)において講評を行った。
- 3) 平成29年度第1回清水介護保険事業所連絡会合同研究会(平成29年9月)の企画・運営を担当した。

田中悠美

- 1) 静岡市障害支援区分認定等審査会の審査委員として、会議に参加した(平成29年4月～)。
- 2) 平成30年度 地(知)の拠点事業として、平成30年2月17日に開催された葵区長尾川、清水区有度圏域の専門職を対象とした「退院支援・多職種連携」研修会の運営を担当した。

VIII. 学部・研究科としての社会貢献

1. 公開講座等の開催状況

講義は地域への開放と共に学ぶ機会の提供を目的とし、公開可能な講義を公開した。開催時期、テーマ、講師、参加者数は、次表(表VI-6-2)の通りである。

表VI-6-2 H28年度特別講義実施状況

	開催日	テーマ	講師	参加人数
1	8/4(金)	感染症看護の基礎知識「易感染性と感染症」	河村 一郎 (大阪国際がんセンター)	73
2	8/10(木)	看護実践を支えるシステムティック・レビュー	堀 芽久美 (国立がん研究センター)	90
3	9/19(火)	現象学的看護研究	西村 ユミ (首都大学東京健康福祉学部)	91
4	10/6(金)	インドネシアでのPHC(プライマリ・ヘルスケア)と日本の保健師活動を基盤にした地域看護の人材育成	森口 育子 (兵庫県立大学)	221
5	10/10(火)	臨地実習と卒後研修を担う病院看護師の教育的視座	細田 泰子 (大阪府立大学)	144
6	10/13(金)	看護の質と患者のアウトカムを向上させるクリニカルナースリーダーの役割	竹熊カツマタ麻子 (筑波大学)	82
7	10/16(月)	その人らしい生活を支える看護 ー包括的なコミュニケーションメソッド:ユマニチュードの実際ー	膽畑 敦子 (豊橋医療センター)	210
8	10/27(金)	神経難病療養者とその家族を中心とした地域連携・看護実践 ーHAL・LSTVに焦点をあててー	加納 江理 (北斗わかば病院)	191
9	11/8(水)	最新の肺癌の外科治療と薬物治療	千原 幸司 (静岡市立静岡病院)	61
10	11/15(水)	命の危機に直面している人びとを救うために	加藤 寛幸 (国境なき医師団日本)	70
11	11/22(水)	わが国の小児医療の倫理的課題 ー小児看護のあるべき姿を考えるー	掛江 直子 (国立成育医療研究センター)	58
12	11/29(水)	臨床現場におけるリスクマネジメント	中野 由美子 (聖隷浜松病院)	33
13	12/11(月)	世界三大感染症とその歴史	國井 修 (世界エイズ・結核・マラリア対策基金)	22

14	12/13(水)	Dynamic WOC ケア ー最新のがん WOC (創傷・オストミー・失禁) Care	森岡 直子 (静岡県立静岡がんセンター)	32
15	1/18(木)	精神保健福祉施策の動向	望月 聡一郎 (国際医療福祉大学)	127
16	1/22 (月)	The Sitting Position Without Back Support	大久保 暢子 (聖路加国際大学大学院)	12

2. 高大連携事業

今年度は静岡県内の 15 校からの要望に対応した。ほとんどの高校が進路指導の一貫として行われており、大学での講義の様子を知るために看護学や医学領域の基礎的な知識を教授する講義への要請であった。出張講義では、高校生に対して大学での講義・演習や看護学部のイメージが持てるように、また看護学への興味・関心がわくような講義を心がけた。高校によっては、講義後に生徒にアンケートを行い、その結果を講師にフィードバックしている高校もあった。看護職に対する興味関心が高い今日において、看護を学ぶことの意味や重要性を高校生に伝え、看護学部の存在をアピールする大切な機会として今後も積極的に取り組んでゆく必要がある。概要は以下(表VI-6-2)のとおりである。

表VI-6-2 高大連携による講師派遣

	学校名	派遣教員	テーマ	開催日	学年	参加人数
1	藤枝西	中川 有加	命をつなぐ看護師の仕事	6/16	1・2・3年	45名
2	清水南	前野 真由美	「看護・看護師」「看護学部で学ぶ内容、実習、看護系の職業」	6/19	2年	10名
3	星陵	田中 範佳	看護とデザイン	6/21	2年	50名
4	富士市立	山田 紋子	看護師の役割って何だろう?	7/21	2年	21名
5	浜松大平台	長澤 利枝	看護学部の紹介～看護を学ぶということ	7/14	2・3年	20名
6	御殿場南	管原 清子	看護ってどんな仕事?	7/20	2・3年	35名
7	富士	鈴木 琴江	大学で看護を学ぶということ	7/24	1年	20名
8	清水桜が丘	操 華子	看護とは? 看護師とは?	7/28	3年	15名
9	静岡学園	飯塚 真樹	看護師の役割ってなんだろう	7/28	2年	20名
10	駿河総合	高林 ふみ代	大学で看護学を学ぶために大切な高校での学び	9/11	3年	20名

11	下田	石川 真	高齢者が脱水になりやすい理由	9/22	2年	20名
12	市立沼津	今磯 純子	少子高齢社会における看護	9/22	1・2・3年	40名 ×2
13	清水西	酒井 知子	看護を大学で学ぶということ	9/25	1・2年	120名
14	沼津西	今福 恵子	様々な場で活躍する看護職の魅力	9/28	2年	47名
15	三島南	田中 範佳	看護とデザイン	10/17	1・2年	30名 ×2
16	静岡市立	渡邊 順子	大学で看護と看護学を学び、そして看護師になることの意味	10/19	1・2・3年	40名
17	伊東	村方 多鶴子	生涯人間発達論	10/24	1・2年	15名 ×2
18	静岡城北	深江 久代	看護の仕事と看護職になるためには	10/25	1・2年	40名 ×2
19	浜松湖南	石切山 千恵	看護師という職業について	11/16	2年	36名
20	三島南	福島 恭子	私たちのはじまり- 看護の起源・生命の創造	11/27	2年	23名
21	焼津中央	西川 浩昭	看護学部における教育と研究	12/7	1・2年	30名
22	英和女学院	石川 紀子	母性看護学～助産師の仕事～	1/30	2年	10名

3. 県民の日大学ツアー

「県民の日」事業の『夏休み県大ツアー』は、県民の日事業として8月18日(金)13:00～16:30に草薙キャンパスで実施した。看護学部は、1階の専門基礎実習室では人体模型などの見学、2階実習室では、老年看護学領域が担当し、テーマを「ゴーグルをつけて高齢者の視界を体験してみよう!」とし、参加者にはグループ毎に見学・体験をしてもらった。113名の参加があり、親子や友人同士で参加する人が多かった。事後アンケートでは、全ての参加者が「楽しかった」と回答し、特に実験などゲーム感覚で体験できる企画が好評であった。